令和５年度掲載候補校一覧

学校名・取組をクリック！

No	校種	領域	学校名	取　組
1	小学校	防災	岩国市立柱野小学校	防災キャンプ
2	小学校	防犯	柳井市立伊陸小学校	地域と連携した不審者対応訓練
3	小学校	防災	周防大島町立三蒲小学校	地域ぐるみの防災キャンプ
4	小学校	防災	上関町立上関小学校	専門家による出前授業を積極的に活用した防災学習
5	小学校	防犯	田布施町立麻郷小学校	不審者対応避難訓練
6	小学校	防災	平生町立平生小学校	幼小合同地震・津波対応避難訓練
7	小学校	防災	周南市立戸田小学校	幼稚園・小学校・中学校合同引き渡し訓練
8	小学校	防災	下松市立豊井小学校	幼・小・地域合同で実施した避難訓練・防災学習（避難所体験）
9	小学校	防災	光市立上島田小学校	防災意識アップ大作戦（「逃げ地図」づくり）
10	小学校	防災	山口市立小郡小学校	青少年赤十字 SDGs 防災学習プロジェクト
11	小学校	複合	防府市立勝間小学校	事前に日時等を告げない避難訓練（地震避難訓練・緊急時引き渡し訓練、不審者対応避難訓練）
12	小学校	防災	防府市立佐波小学校	水難に対する防災学習（佐波川流域住人の自覚をもって）
13	小学校	防犯	防府市立右田小学校	右田地区安全マップを作ろう
14	小学校	生活	山陽小野田市立埴生小学校	学校保健安全委員会　救急蘇生法講習会・緊急時対応研修会
15	小学校	複合	下関市立養治小学校	校区安全委員会
16	小学校	防災	下関市立吉母小学校	よしみ地区合同地震・津波避難訓練
17	小学校	生活	萩市立佐々並小学校	全校児童参加による AED 講習と学校の危険個所クイズの作成・発表
18	小学校	防災	長門市立向陽小学校	消防本部と連携した火災対応避難訓練
19	小学校	防災	長門市立俵山小学校	土砂災害・河川氾濫対応避難訓練
20	小学校	防犯	阿武町立阿武小学校	不審者対応避難訓練（一部ブラインド型）
21	小学校	複合	阿武町立福賀小学校	地域で起こり得る危険から身を守る
22	小学校	防災	萩市立小中一貫教育校 川上小学校	保小中連携による　避難訓練（緊急時引き渡し訓練）
23	中学校	防災	岩国市立美和中学校	美和町小・中・高合同防災学習
24	中学校	防災	和木町立和木中学校	避難訓練・防災訓練
25	中学校	防災	柳井市立大畠中学校	専門家等と連携した防災ワークショップ
26	中学校	防災	周防大島町立大島中学校	緊急時対応保護者への引き渡し訓練

27	中学校	複合	平生町立平生中学校	関係機関と連携した避難訓練
28	中学校	防災	下松市立末武中学校	地域と連携した合同防災活動
29	中学校	防災	光市立大和中学校	防災学習（1 年生）
30	中学校	生活	山口市立宮野中学校	生徒が主体となった安心・安全マップづくり
31	中学校	防災	防府市立牟礼中学校	幼保小中同一日引き渡し訓練
32	中学校	防災	宇部市立川上中学校	地震対応避難訓練
33	中学校	生活	美祢市立厚保中学校	小中学校合同通学路フィールドワーク
34	中学校	防犯	山陽小野田市立竜王中学校	不審者対応避難訓練・保護者引き渡し訓練
35	中学校	防災	下関市立文洋中学校	地域・公民館と連携して実施する防災訓練
36	中学校	生活	萩市立萩西中学校	生徒を対象としたＡＥＤの使用を含む「応急手当講習会」と「着衣泳」
37	中学校	防災	長門市立三隅中学校	三隅地区合同避難訓練
38	中学校	防災	長門市立日置中学校	日置みすゞ学園を中心とした組織連携による防災訓練
39	小中	防災	周南市立福川中学校 周南市立福川小学校 周南市立福川南小学校	災害安全（防災）の推進
40	小中	複合	萩市立見島小中学校	学校安全委員会
41	県立	複合	山口県立岩国総合高等学校	交通事故、災害から自分の身を守るために！
42	県立	生活	山口県立防府商工高等学校	教職員を対象とした救命救急講習会
43	県立	防災	山口県立宇部西高等学校	教職員の安全意識と危機対応能力を図る
44	県立	防災	山口県立厚狭高等学校	安全教育「事前に告げない防災避難訓練」
45	県立	交通	山口県立山口農業高等学校 西市分校	豊田幹部交番交通安全イベント
46	県立	防犯	山口県立下関北高等学校	防犯教室
47	県立	複合	山口県立萩商工高等学校	①防災訓練②救急処置研修会
48	県立	生活	山口県立下関中等教育学校	ＡＥＤ講習会
49	県立	複合	山口県立徳山総合支援学校	ＰＴＡ防災・広報部による校内安全パトロールの実施
50	県立	災害	山口県立宇部総合支援学校	児童生徒が考えて行動する避難訓練

取 組 名	防災キャンプ		
特　　徴	学校・家庭・地域が連携した防災の取組		
学 校 名	岩国市立柱野小学校	期日	令和5年5月18日（木曜日） 令和5年5月19日（金曜日）

1　ねらい

○　学校・家庭・地域が連携して防災キャンプに取り組むことで、非常時に的確に対応できる知識や技術を身に付け、協力して行動できるようにする。

　大規模災害や重大事件等の発生時の危険から身を守るための避難および引き渡し訓練、避難所体験を実施することにより、危機対応能力を高める。

2　概要

（1）1日目の活動内容

・防災学習

　防災講話～『災害に備える』

　「危険を早く察知しよう → 地震・津波・台風・洪水等」

　「自分の町の危険箇所を知ろう → ハザードマップ」

　「早く安全な場所に避難しよう → 避難指示・警戒レベル」

　防災グッズ作り（新聞紙による皿・コップ・スリッパ等）

・避難所体験

　宿泊準備（簡易間仕切り・銀マット・体育マット・毛布等）

　天体観測・天体の話（学校支援ボランティアの方より）

　非常灯作り（ビニル袋やペットボトルの活用）

・就寝準備・消灯

避難所体験（段ボールベット）

朝食作り（非常食）

（2）2日目の活動内容

・起床・朝のつどい（ラジオ体操・健康観察等）

・朝食作り（非常食：五目ご飯・ポタージュスープ・水）

・防災体験講座

　ＶＲ体験（実体験に限りなく近いリアルな体験）

　テントや担架の使用方法・避難所の片付け

・振り返りの場（振り返りカード記入）⇒ 防災マップの見直し

・避難および引き渡し訓練（引き渡しカード・相手の確認）

防災体験講座（ＶＲ体験）

3　成果と今後の課題等

（1）成果

○　岩国市総務部危機管理課との協働により、「自助・共助・公助」や緊急安全確保、避難場所・避難経路、情報伝達体制等について、災害に備えるために大切なことを詳しく学べた。

○　児童一人ひとりが、防災について自分事として主体的に捉えるようになり、判断力の向上や真剣な行動につながった。

○　学校・家庭・地域の一体感が育まれ、それぞれの立場で、様々な状況を想定するようになり、危機意識の向上が図れた。

（2）課題

○　安心・安全に避難するために、専門機関と協働しながら、より現実的なブラインド型訓練（11月実施）も取り入れていくことが必要である。

○　訓練の実施と振り返りを確実に行い、常に危機管理マニュアルを見直しながら、今後も学校・家庭・地域が連携して、防災の取組を拡充していきたい。

一覧にもどる

取 組 名	地域と連携した不審者対応訓練		
特　徴	公民館との複合施設という立地環境を踏まえ、地域と連携した訓練を行う。		
学 校 名	柳井市立伊陸小学校	期日	令和5年6月16日（金曜日）

※　本校の校舎は、公民館との複合施設となっており、地域住民等の出入りも日常的に行われている。人の出入りが容易な環境に置かれていることから、防犯・防災における公民館との連携は必須であると考え、以下の対応訓練を仕組んだ。

1　ねらい

○　不審者を回避するための知識を獲得し、不審者に遭遇したときの対処方法を身につける。（児童）

○　校内に侵入した不審者に対し、組織的に対処する方法を身に付ける。（教職員・公民館職員）

2　概要

想定

不審者が、公民館入口から侵入。大声で騒ぎながら、保健室前→校長室前の廊下を通り、児童棟へ向かおうとする。

（1）事前指導・・・避難訓練の趣旨の確認

○　「●●●●●」…不審者侵入の合図であることを確認する。

○　生命を守るために指示をよく聞き、静かに行動することの必要性について説明する。

（2）避難訓練の実施

児　　童	教　　職　　員
○　不審者役の少年安全サポーターが、公民館入口から侵入。大声で騒ぐ。	
【不審者侵入についての緊急放送】 校内放送 訓練放送。訓練放送。●●●●●。先生方は、至急対応願います。（2回繰り返す） ・教員や放送の指示をしっかりと聞く。 ・全てのカギ／カーテンを閉め、静かに教室に潜む	・声を聞いた校長・事務・公民館職員は、不審者に対応する。 ・教頭…110番通報→携帯で状況を伝達 ・養護教諭…緊急放送 ・男性教職員は、現場に駆けつける。 ・女性教職員は、児童管理をする。
【不審者の身柄が確保された後、人員確認等のため移動(多目的スペースへ)】 校内放送 安全が確認されました。児童のみなさんは多目的スペースに移動しましょう。	・残留児童の確認をした上で、慌てず速やかに移動させる。 ・担任は児童の避難確認を行い、状況を教頭へ報告する。
○　少年安全サポーター、伊陸地区防犯指導員、柳井警察署伊陸出張所長からの指導（講話） 身の守り方の実習・防犯ブザー鳴動確認等　実践的な指導	

（3）　事後指導・・・<u>避難訓練の振り返り</u>

○　家を出るときは必ず行き先を告げることや、不審者に遭わない場所・時間のもとで遊ぶこと、活動することを確認する。

○　不審者に遭ったら、「おはしもち」を実行できるように指導する。

公民館職員と連携し、不審者に対応する様子

3　成果と今後の課題等

地域の方と連携しながら、避難訓練を行ったことは、地域に暮らす児童にとって有意義なものであったと感じる。地域の中で見守りをしてくださっている方等の指導を受けることで、家庭での過ごし方についてもあらためて見直す機会となった。

今後は、予告しないで行う（ブラインド方式）の避難訓練も実施し、さらに「自助」の意識をもたせたい。

地区防犯指導員等による実習の様子

一覧にもどる

取 組 名	地域ぐるみの防災キャンプ		
特　　徴	地域・保護者・行政との連携		
学 校 名	周防大島町立三蒲小学校	期日	令和５年７月21日(金曜日)・22日(土曜日)

1　ねらい

「地域協育ネット」等が主体となり、学校・保護者・関係機関が連携し、さまざまな災害への対応について学ぶとともに、防災訓練や避難所生活を想定した宿泊体験、炊き出し訓練、救急救命訓練等を含む総合的な体験学習を実施し、児童生徒が災害発生時において、正しい知識をもとに的確に状況を判断し、自ら安全に行動することはもとより、他の人や社会に貢献できる心と実践力の育成を図る。

2　概要

（1）講義・演習　救急救命法

柳井市広域消防組合西出張所の方々に、胸骨圧迫の方法やＡＥＤの使い方の指導を受けた。救急車が到着するまで、意識がない人にどのような処置を施せばよいか、体験を通して深く学ぶことができた。

〈救急救命法〉

（2）講義・演習　水辺の安全教室

Ｂ＆Ｇ海洋センターの方に、水辺での安全について講話をしていただいた後、着衣水泳の体験を行った。水中での動きの大変さや、長く浮いて命を守るための方法などを学んだ。

（3）備蓄食料の実食

昼食として、備蓄食料（携帯おにぎり、ライスクッキー）を食べた。携帯おにぎりは、湯をかけたり袋を切ったりする作業を要し、食べられるようにするのに時間がかかるため、事前に約10名の地域の方々にご協力いただき、昼食時刻に合わせて約70食分を作っていただいた。

〈写真洗い体験〉

（4）講義・演習　ボランティア活動の実際と写真洗い体験

岡山県で災害ボランティアの活動をされている三蒲地区出身の方に、ボランティア活動についての講話をしていただき、写真洗いの体験をした。日頃の防災学習では、災害時の安全確保や災害に備えた取組について学ぶことがほとんどだが、今回の演習は、災害が起きた後に自分にできることはないかを考える貴重な体験となった。

（5）避難所生活体験　炊き出し夕食

炊き出し夕食では、町内の栄養教諭を中心に、地域や保護者の方々にカレーライスを作っていただいた。約100人分ものカレーを手際よく作ってくださり、児童生徒は、たくさんの方々に支えられていることを実感したようだ。米一升分は、ガスも電気も使えない想定で野外で薪による釜炊きご飯も作っていただいた。

〈避難所生活体験〉

（6）避難所生活体験　宿泊心得・寝床づくり体験　就寝準備

周防大島町総務課消防防災班の方々に避難生活での宿泊心得について講話をいただき、宿泊で使用するテントや段ボールベッド等の組み立ての体験をした。実際の避難所で不安を抱きながら知らない者同士が、同じ場所で安心して就寝することができるようにするためにどうすればよいかを考えることができた。

3　成果と今後の課題等

○　ほとんどの参加者が避難所で過ごした経験がなかったため、今回の宿泊を伴う訓練は大変貴重な体験となった。

○　多くの地域や保護者の方々にご参加いただき、様々な活動をとおして、学校・保護者・地域のつながりが深まった。このことにより、実際に災害が発生した時も、互いに協力し合って命を守る行動がとれると思われる。

一覧にもどる

取 組 名	専門家による出前授業を積極的に活用した防災学習		
特　　徴	山口県土木建築部砂防課・山口県総務部防災危機管理課による出前授業の活用により、防災意識の向上を図った。		
学 校 名	上関町立上関小学校	期日	令和5年5月30日（火曜日） 令和5年11月9日（木曜日）

1　ねらい

○　自分たちの住んでいる地域における土砂災害の危険性や備えの大切さについて理解と関心を深める。

○　災害を疑似体験することで災害の恐ろしさを知り、事前の備えや撮るべき対応を自分事として考える。

2　概要

（1）砂防出前教室

・4年生から6年生までの26名を対象に、山口県土木建築部砂防課による「砂防出前授業」を実施し、土砂災害について学んだ。

・山口県を襲った災害についての映像や、土石流装置を使った実験、マップを用いた演習などで土砂災害について詳しく学んだ。梅雨時期を前にした5月に実施したことで、今後の出水期に対する心構えを持つことができた。

山口県を襲った災害について

土石流装置の実験

マップを用いた演習

（2）防災体験学習講座

・山口県防災危機管理課による「防災体験学習講座」を実施し、災害の疑似体験など防災意識をさらに高めるための取組を行った。この講座も4年生から6年生までが受講した。

・AR（拡張現実）・VR（仮想現実）機器を用いて浸水害や地震の災害体験をした。実感を伴う体験をすることで、防災について改めて考えることができた。

地震の災害疑似体験

浸水害の疑似体験

ふりかえりの様子

3　成果と今後の課題等

4・5・6年生に繰り返し指導を行うことで、土砂災害の危険性や備えの大切さについて理解と関心を深めることができた。それぞれ、出前授業を担当する部署が違い、異なる角度から多面的に防災について学ぶことができた。梅雨や台風のシーズン前後に2つの出前授業を設定したことで自分たちの地域における出水期の状況を身近に感じながら学習することができた。子どもたちは自分たちの住んでいる上関地域のハザードマップを見る機会も増え、万が一の際の避難について具体的に考えていた。

この取組は出前授業の募集を受けての活用であり、来年度以降同じ出前授業を利用できない可能性がある。子どもたちが防災について学ぶ機会を、様々に探っていく必要がある。

一覧にもどる

取 組 名	不審者対応避難訓練		
特　　徴	不審者侵入という非常事態に対し、警察と連携をとりながら全児童と教職員の命を守る不審者対応避難訓練		
学 校 名	田布施町立麻郷小学校	期日	令和5年6月23日（金曜日）

1　ねらい

○　教職員：不審者侵入という非常事態に対し、「①児童の安全確保」「②不審者への迅速な対応」「③警察と教育委員会への通報等」緊急場面への十分な対処ができるようにする。

児　童：放送や教職員の指示に従い、速やかに安全な場所へ避難することができるようにする。

2　概要

（1）取組内容

・「不審者らしき人物が玄関より校舎内へ侵入してきた」という想定の下、訓練を行った。
・　１年教室の方へ向かおうとしている不審者を目撃した事務室職員が、職員室・校長室の在室者へ連絡を入れる。在室していた教職員が対応するとともに、児童に危害を加える恐れがあると判断した教職員が校内放送で避難指示をする。
・　児童は、各教室でバリケードを出入り口に作り、気配を消して教員の指示に従う。男性教員は、児童の安全確保ができた時点で不審者対応へ向かう。
・　事務職員は警察へ通報し、田布施町教育委員会へも応援要請をする。
・　けが人が出た場合は、養護教諭は１１９番通報をする。
・　警察の到着まで、管理職等で不審者を児童へ近づけないよう、対応する。

（2）事前準備

・不審者侵入時の暗号放送について
不審者を刺激しないように、暗号を用いた放送を流す。それぞれの言葉の意味を児童に事前に知らせておく。
・対処の方法
①一人ひとりの行動が「全校の安全を守る」ことにつながることを確認する。
②自分の安全を守るため、教職員の指示に従い、慌てず、迅速に行動する。不審者は、待ってくれない。
③不審者には決して近づかない。離れるようにする。
④避難時は、気配を消すことが重要である。絶対に「声」を出さない。

気配を消して避難

（3）当日の流れ

・　9:20「不審者侵入」
・　9:21「不審者対応」
・　9:22「校長へ報告」
・　9:25「避難放送・警察へ通報・町教委へ連絡を指示」
・　9:26「避難放送・警察へ通報・町教委へ連絡を実行」「119番通報（必要に応じ）」
・　9:35「警察到着・不審者身柄確保」
「警察より教職員へ、不審者対応の心得とさすまたの使い方」
・　9:42「児童の体育館への移動開始」
・　9:45「校長講話」「安全サポーターによる指導・講話」
・10:00「教室へ戻り、振り返り」

不審者への対応

3　成果と今後の課題等

警察署の方の指導の下、緊急時の状態にできるだけ近い形で実践ができたため、それぞれの立場で、安全を最優先に対処する方法を考え、実践したことで、教職員の対応力を高めることができた。

また、年度初めの早い時期に訓練を行うことで、安全への意識を高め、教職員、児童ともに対応の確認をすることができ、この時期の実施がよいと感じた。

不審者対応をしている時間、避難している児童や教職員は、何が起こっているか不安な状態が続くため、体育館へ避難した際、不審者に対応している動画等で様子を視聴することで次に生きる避難訓練につながると感じた。

一覧にもどる

取 組 名	幼小合同地震・津波対応避難訓練		
特　　徴	隣接する幼稚園と連携した避難訓練		
学 校 名	平生町立平生小学校	期日	令和5年10月11日（水曜日）

1　ねらい

○　地震及び津波発生時における安全な基本行動を身に付ける。

○　地震や津波に備え、安全意識の高揚を図るとともに、幼児とともに避難することを通して、助け合いと生命尊重の精神を養う。

○　非常時における職員の避難誘導体制の確認を行う。

2　概要

(1) 事前指導

・地震や津波に備える日頃の心構えを話し合う。

・震災時における安全な基本行動を理解させる。

・避難訓練の予告を行う。

(2) 想定内容

「授業中に震度6弱の地震が発生。その後、大津波警報が発令される。」

(3) 訓練の流れ

・【地震発生直後の避難行動】シェイクアウトの姿勢をとる。

・【一次避難】児童を運動場に避難させる。

・【二次避難】大津波警報が発令されたことを受け、児童を大野地域交流センターに安全に避難させる。6年生は平生幼稚園へ行き、園児と手をつないで一緒に避難する。

3　成果と今後の課題等

以前は二次避難先として山に向かう道路の途中を想定し、そこへ避難していた。学校から約750mの地点で海抜20m以上であったが、避難後の待機場所としては適切でなかったため、二次避難場所や避難経路の見直しを行い、大野地域交流センターに変更した。こちらは学校からの距離が約1.1km、海抜12.8mであるがトイレや固定電話等もある公共施設であり、避難後の保護者への引き渡しもしやすい場所である。地震発生から最大の津波が到達するまで66分の想定であり、園児と一緒に歩いても十分に間に合う場所である。

全校放送による合図で、一次避難所である運動場に避難した。欠席児童を除く全員の安全が確認されるまで、地震発生から約8分、さらに二次避難場所である大野地区交流センターに地震発生から36分後に全員が避難完了した。安全に気を付けながら歩いて避難し、想定通りの時間で移動できたが、人員確認にかなりの時間を要したことから、事前に欠席者数を把握しておくことが重要である。また、避難訓練に限らず、園児と手をつないで道路を歩くときは、園児が車と反対側になるようにすることで安全に歩行できることを児童に伝えておくことが必要である。

地震発生直後の安全行動

園児と手をつないで避難

二次避難場所へ全員避難完了

一覧にもどる

取 組 名	幼稚園・小学校・中学校合同引き渡し訓練		
特　　徴	コミュニティ・スクールの連携・協働体制を生かした訓練の実施		
学 校 名	周南市立戸田小学校	期日	令和5年9月26日（火曜日）

1　ねらい

○　災害時に児童が自分の命を守るための行動ができる。
○　災害時に保護者との連携を迅速に行い、児童を安全に引き渡すことができる。
○　災害時に幼児・児童・生徒の命を守る地域ぐるみの安全管理体制を構築する。

2　概要

（1）参加者　幼稚園・学校関係者（幼児・児童・生徒・保育士・教職員・保護者）
（2）助言・協力者
戸田地区自主防災協議会員、山口県学校防災アドバイザー、戸田駐在員
（3）特徴

○　幼稚園・小学校・中学校合同による訓練の実施

【事前】
・実際の引き渡しに近い状況をつくるため、隣接する幼稚園・小学校・中学校合同での引き渡し訓練を計画した。
・幼稚園・学校の担当者による事前打ち合わせで訓練の目的を共有し、スムーズな引き渡しに向けた協議を行った。兄弟がいる場合の引き渡し順序「幼稚園→小学校→中学校」、駐車場の分散化、車両一方通行などについて確認した。

【訓練当日】
・学校安全メールで緊急連絡を行い、幼稚園・小学校・中学校が一斉に引き渡し訓練を開始した。戸田駐在員には、車両誘導の協力をしていただいた。

【事後】
・幼稚園・学校の担当者による評価の場を設け、課題や成果について意見交換を行った。

幼稚園・小学校・中学校の担当者打ち合わせ

自主防災協議会員による訓練前の打ち合わせ

保護者への引き渡しの様子

○　自主防災協議会や山口県学校防災アドバイザーとの連携

【事前】
・訓練計画について自主防災協議会員から助言をいただき、計画の見直しを行った。

【事後】
・自主防災協議会員と山口県学校防災アドバイザーから、引き渡し手順や車の移動経路、教職員の動きなどについて助言をいただいた。助言をもとに「引き渡しマニュアル」の改定を行い保護者に配付した。

改善に向けた意見交換会

3　成果と今後の課題等

自主防災協議会員や山口県学校防災アドバイザーから、地域の実態に即した、より専門的な助言をいただくことができ、様々な視点から学校の安全管理体制を見直すことができた。

今後は、カリキュラム・マネジメントの視点から学校安全計画の見直し・改善を行い、児童が主体的に取り組むことに視点をあてた防災・安全教育の推進に取り組んでいきたい。

一覧にもどる

取 組 名	幼･小･地域合同で実施した避難訓練・防災学習（避難所体験）		
特　　徴	隣接する幼稚園や地域と連携しての避難訓練･関係機関と連携した防災学習		
学 校 名	下松市立豊井小学校	期日	令和5年11月7日（火曜日）

1　ねらい

○　休み時間中の地震を想定し、安全かつ迅速に対処、避難するための基礎的事項を訓練する。

○　幼稚園・小学校・及び地元自治会が合同で避難訓練を行い、災害発生時には、相互に連絡を取り合いながら協力して避難する。

○　避難所となる公民館での避難所体験をすることにより、児童の災害時の危機意識を高め、学校・地域・関係機関が連携しての危機管理能力を高める。

2　概要

（1）合同避難訓練

○　想定：県東部を中心に、震度 5（強）の地震が発生。児童の運動場への避難後、幼稚園児の避難誘導を幼・小・地域合同で行う。

○　地震後に停電となり校内放送が使えない状況を想定し、放送で緊急避難速報と地震の効果音を流す。

○　放送後、ハンドマイクで運動場への避難を促し、子どもたちは運動場の中央に避難する。

○　幼稚園と連絡を取り、幼稚園・教員・地域住民が協働して小学校運動場への避難誘導を行う。

「自分の身を守る行動」

「連携して園児を避難誘導」

「全員が避難した様子」

（2）防災学習

○　全校児童が二次避難場所である公民館へ移動する。

○　段ボールベッドの設営体験やマンホールトイレの組立・解体を見学する。

○　防災資機材や防災食の説明を聞く。

「段ボールベッドの組立」

「マンホールトイレの組立の見学」

「非常用ポンプでの水の汲み上げ」

3　成果と今後の課題等

○　子どもたちが運動場や教室等校内の様々な場所で過ごす昼休みの時間に、地震を想定しての避難訓練を行ったが、子どもたちは自分の身を守る行動を自ら判断して行い、落ち着いて運動場の中央に避難することができた。児童の避難後、学校・幼稚園の職員と地域の方で園児を小学校の運動場に安全に誘導して避難することができた。津波を想定しての校舎2階への垂直避難も含めて、地域と連携した実践的な避難訓練を今後も行っていきたい。

○　公民館や市防災危機管理課、市下水道課と連携した防災学習では、土砂災害時での二次避難場所である公民館での避難所を想定しての段ボールベッドの組立や非常用ポンプでの水の汲み上げ、マンホールトイレの組立の見学等の活動を行い、避難所についての理解を深め、防災意識を高める貴重な体験となった。引き続き関係機関と連携した体験的な防災学習を行っていきたい。

一覧に
もどる

取 組 名	防災意識アップ大作戦（「逃げ地図」づくり）		
特　　徴	自主防災会や防災士との連携、コミュニティ・スクール推進部会との協働		
学 校 名	光市立上島田小学校	期日	令和5年11月17日（金曜日）

1　ねらい

○　洪水や土砂災害の被害を受ける危険性が高い本校校区の特性を理解し、地区ごとの危険箇所や避難場所を掲載した逃げ地図づくりを通して、洪水や土砂災害から身を守ろうとする意識を高める。

2　概要

6年生の総合的な学習の時間の一環として、「防災意識アップ大作戦」に取り組んだ。

（1）洪水や土砂災害について学ぶ

6月28日（水曜日）に防災士の方をゲストティーチャーに迎えて、6年生児童が洪水や土砂災害について、近年の県内の被害の状況や身を守る方法を学んだ。

（2）6年生が通学路の危険箇所を調査する

その後、本校のコミュニティ・スクール推進部会の「安全・体力づくり部」の方々や自主防災会の方々とともに6年生の児童が地区ごとに通学路の危険箇所を調査し、写真撮影をした。

通学路の危険箇所調査の様子

（3）危険箇所の写真を地図に貼る

11月15日（水曜日）に自主防災会の方に用意していただいた校区の地図に6年生の児童が自分たちで撮影した危険箇所の写真を地区ごとに貼り付けて、逃げ地図づくりの準備をした。

（4）自分たちの校区の「逃げ地図」を作る

11月17日（金曜日）に6年生児童が中心となり4・5年生とともに地区ごとに分かれて、自主防災会や防災アドバイザーの方々の支援を受けながら、洪水や土砂災害が起きたときに気をつけて通らなければならない場所や身を守ることができる場所を書き込んだ「逃げ地図」を作った。

「逃げ地図」づくりの様子

3　成果と今後の課題等

児童たちは、洪水や土砂災害の被害が起きた際に、自宅や学校、通学路等で危険が予想される場所やどこに避難すれば身を守ることができるかを知ることができた。同じ地区の児童がその情報を共有することで、地域全体で児童が災害発生時に主体的に判断して行動できるようになることが期待できる。作成した「逃げ地図」を下級生や保護者・地域の方々にも見ていただけるように周知する機会をつくりたい。

川に近い低地に住む地区の児童は、近くに避難する場所が見つからず、遠くまで避難しなければならないことが分かった。そのため、避難する際にどう行動すればよいかイメージがもちにくい様子が見られた。避難指示が出る前に早めに避難することや家庭での防災意識を高めることにつなげていく必要がある。

一覧にもどる

取 組 名	青少年赤十字SDGs防災学習プロジェクト		
特　　徴	災害が起こった時に自ら「気づき、考え、実行する」自主・自律の態度を養う		
学 校 名	山口市立小郡小学校	期日	令和5年10月6日（金曜日）

1　ねらい

○　今後発生が予想される大規模地震や、近年多発している豪雨災害などへの備えの必要性を認識し、災害が起こった時に自ら「気づき、考え、実行する」という自主・自律の態度、自ら生き抜く力を養う。

○　日本赤十字社山口県支部が開催する防災講習を通して、災害時に直面する命の危険を理解すると共に、実際に被災地で救護活動にあたる日赤職員から、家族や地域の方々など身近な人々を助けるための具体的な知識やスキルを学ぶ。

2　概要

(1)　「東日本大震災救護活動」についての講演

・東日本大震災時に救護活動にあたった日赤救護員が、災害の恐ろしさと、命を守るための備えの大切さについて、当時の様子を写真と共に振り返りながら子どもたちに伝える。

(2)　JRC講話

・子どもたちが赤十字の成り立ちや活動内容を知ることで、自他の命の尊さについて改めて見つめ直し、災害時のみならず、学校生活にもその心情を生かせるようにする。

(3)　大雨防災ワークショップ

・大雨災害を想定し、家庭内での備えや避難行動の計画をグループで話し合う。

(4)　避難所体験

・避難所で多様な人たちと共同生活を送るというシミュレーション活動を行う。世代や立場によって異なる身体の状態や、心配事などを避難者役の高齢者や外国人から聞き取ることを通して、学びを深める。

「東日本大震災救護活動」講演会

大雨防災ワークショップ

避難所体験

3　成果と今後の課題等

○　「東日本大震災救護活動」についての講演を聞くことを通して、子どもたちは具体的な地震や津波災害の様子を知ることができた。

○　「避難所体験」では、高齢者や新生児、外国人等に対して、防災グッズを用いて、どんな手助けができるか、具体的な避難活動や生活をイメージすることができた。

○　「大雨防災ワークショップ」では、大雨に備えてどんな準備が必要なのか、大雨時には、段階に応じてどういう行動を取らなければいけないのか、避難所までの経路はどこを通ればよいのかなど、地図をもとに実践的なシミュレーションを話し合うことができた。

○　今後の課題として、家庭内でも災害に備えて準備を行っていると答えた子どももいるが、まだ実際には災害に備えていない家庭も多くあった。今回の防災教育で学んだ内容を家庭にも波及させていくことが必要である。

一覧にもどる

取 組 名	事前に日時等を告げない避難訓練 （地震避難訓練・緊急時引き渡し訓練、不審者対応避難訓練）		
特　　徴	発生時刻・場所を具体的に告げない訓練 地域・関係機関と連携した取組		
学 校 名	防府市立勝間小学校	期日	令和5年7月6日（木曜日） 令和5年10月31日（火曜日）

1　ねらい

○　教職員の安全意識の向上と危機対応力の強化を図る。

○　具体的な場面を想定し、代表児童によるロールプレイングにより外部の指導者(スクールガードリーダー)からアドバイスをいただくことで、子どもたちが、自らの命を守るための動き方について“自分事”として考え、主体的に行動できる力を育成する。

2　概要

(1) 発生時刻・場所等を告げない地震避難訓練

・地震が発生した際に、放送機器が使えなくなったことを想定した訓練を実施した。地震の発生による被害状況の伝え方や避難指示の出し方、情報の集め方などの困難さを体感するとともに、事後の振り返りで確認をした。

・避難訓練から引き渡し訓練までの様子を近隣の保育園園長でもある本校学校運営協議会会長の見学があり、実施後、幼保小連携の立場や地域の方としての立場から意見交換をした。

(2) 地域・関係機関と連携した不審者対応避難訓練

・役割分担を決めずに、そのとき見かけた職員が対応をして、その様子を見かけた職員が動くという訓練を実施した。

・避難訓練で体育館に全校が集合したところで、スクールガードリーダーより、1年生の代表児童に下校時に不審者に遭遇した時の行動の取り方についてのアドバイスがあった。ランドセルをつかまれた時には、ランドセルそのものを脱ぎ捨てると良いと指導を受けた。そうすることで逃げることができることを全校児童でも共有することができた。6年生代表児童には、不審者に遭遇し、家に帰ったときの伝え方として、相手の服装や体格などを覚えておくことの大切さを教わった。

下校時に不審者に声をかけられたら…

アドバイスをいただいている様子

不審者の服装や体格について質問されている様子

3　成果と今後の課題等

発生時刻・場所等を告げずに地震避難訓練を実施したことで、事前に用意された計画を予定通り実行するのではなく、教職員も放送を聞いてそれぞれが自分の立場でできることをその場で考え、連携を取りながら動くことの大切さを実感することができた。

放送機器が使えない状況を体感することで、地震の発生による被害状況や避難指示を全体に通達するためにどの場所で指示を出すか、その際の学年主任等の動きやその後の伝達の方法に加えて、全体の避難状況等の情報収集の仕方などを具体的に考えることができた。児童に“静かに聞く”ことの大切さを意識させる良い機会となった。

地域の保育園園長でもある学校運営協議会会長が避難訓練から引き渡し訓練までの様子を参観した。これを機に、今後、地域の保幼小中が連携した合同引き渡し訓練を計画、実施すると良いと感じた。

一覧にもどる

取 組 名	水難に対する防災学習（佐波川流域住人の自覚をもって）		
特　　徴	行政、専門家との連携		
学 校 名	防府市立佐波小学校	期日	令和5年度　通年

1　ねらい

○　総合的な学習の時間の年間計画に、洪水や内水氾濫への防災学習を位置づけ、水害の恐ろしさを知り、日頃からの災害への備えや的確な避難行動等の実践力を身に付けさせる。

○　地域の防災士や専門家、行政職員から専門的な指導を受けることで、「守られている立場」を実感し、自助への行動力、公助への意識の高まりへとつなげる。

2　概要

(1) 行政(国土交通省山口河川国道事務所)による指導（1学期）

○　単元の初めに児童が佐波川に出かけ、それぞれが課題解決したいこと（自然、生物、歴史、防災、護岸や橋などの施設）を決める時間をもった。

○　平成21年の防府市を襲った豪雨と土石流による被害を学習し、年間のテーマを「防災」にしぼった。

○　国土交通省山口河川国道事務所の職員を招聘し、主に、佐波川の治水、橋脚の構造、防災対策をご指導いただいた。（令和5年7月13日）

○　学習したことをグループでまとめ、公民館に掲示していただいた。

現地での学習

山口河川国道事務所の職員の講話

紙面発表

(2) 専門家(山口大学　朝位教授)による指導（2学期）

○　夏休みに「避難カード」を作成し、家庭で避難計画を話し合う機会を作った。

○　過去の佐波川氾濫写真（白黒とカラー）を見せていただき、水害の恐怖と水害対策の歴史と効果を学んだ。（令和5年11月20日）

○　保護者、学校運営協議会委員、市の職員にも共に学習していただいた。

避難カード

山口大学教授の講話

水害の写真

3　成果と今後の課題等

・専門家による高度な学習内容が児童を惹き付けた。また、市の防災危機管理課の職員にも毎回声をかけているので、次回の避難所生活体験（3学期に実施予定）の指導依頼もスムーズに進めることができた。佐波川流域に暮らす者として、家庭、地域、保幼小中とこれまで以上に連携し、防災学習を佐波の地域課題へと高め、共有する土壌をつくりたい。

・学校防災と地域防災が融合した取組があれば、小学生の参画の仕方を模索していく。

一覧にもどる

取 組 名	右田地区安全マップを作ろう		
特　　徴	見回り隊の方々と連携し、ＩＣＴを活用してマップを作成した。		
学 校 名	防府市立右田小学校	期日	令和5年10月18日（水曜日）

1　ねらい

○　友達や見回り隊の方との活動において、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えたり、協力して安全マップを作ったりすることができる。

○　みんなに分かりやすい安全マップを作るために、交通安全・防犯の視点や写真撮影の視点等を考えたり、表現方法を考えたりすることができる。

○　安全マップ作りを通して学んだ「安全と危険を判断する力」をいかして、命を守る安全な行動をとることができる。

2　概要

（1）令和5年10月4日（水曜日）通学路安全点検

・学校周辺を探索し、交通安全・防犯の視点や写真撮影の視点（アップとルーズとで撮影）を確認した。

・見回り隊や保護者の方と連携し、下校しながら右田地区の安全な場所・危険な場所を調べタブレットを活用して情報を整理した。

見回り隊の方の紹介

危険な場所の調査

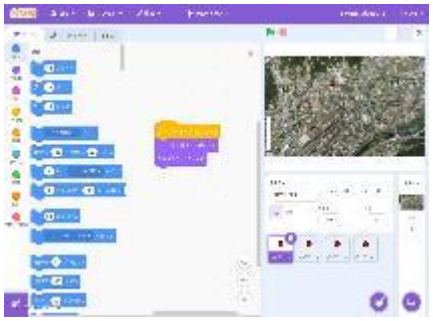
調査内容をまとめた表

（2）令和5年10月18日（水曜日）安全点検報告会

・通学路安全点検で調べたことを地区毎にまとめ、見回り隊の方に右田地区の安全な場所や危険な場所について聞いていただき、安全マップ作りに向けて助言をいただいた。

・プログラミングソフト「スクラッチ」を活用し、地図上の危険箇所をタップすると危険箇所のアップの写真が見られるようにした。

安全点検報告会の様子



スクラッチを使って安全マップを作成

3　成果と今後の課題等

安全な場所、危険な場所を調べたり話し合ったりすることで、自分の身を自分で守る安全意識をより高めることができた。また、見回り隊の方や警察の方々など多くの方の支えによって、地域の安全が守られていることを知り、感謝の気持ちをもつことができた。

一覧にもどる

取　組　名	学校保健安全委員会　救急蘇生法講習会・緊急時対応研修会		
特　　徴	・児童・教職員対象のＡＥＤの使用を含む応急手当救急法 ・養護教諭不在時の事例を用いた緊急時対応法		
学　校　名	山陽小野田市立埴生小学校	期日	令和5年6月15日（木曜日） 令和5年8月18日（金曜日）

1　ねらい

○　自分が偶然、意識のない人と居合わせた場合や水泳学習での救急法の手順を知る。人命救助のための胸骨圧迫やＡＥＤの使い方を実際に体験することで、命を守る児童の意識を高めるとともに、教職員の安全意識の向上を図る。更に、教職員は、児童が急に命の危険があった際に、どのような動きをすればよいか、救急車の呼び方も実際に行い緊急時に備える。

2　概要

(1) 令和5年6月15日　（木曜日）

・水泳学習が始まる前に、救急蘇生法講習会を6年生・教職員・保護者で行う計画を立てた。日本赤十字社から講師を招聘し、講話と実践を行った。実際に意識をなくした人に対して、どのような人命救助ができるのか、講師の方から説明を聞き、児童も全員が胸骨圧迫やＡＥＤの使い方を学んだ。自分の命と同時に他の人の命も大切であることの危機管理意識を高めるため実践を取り入れ行った。

赤十字社の方の話をしっかり聞く

胸骨圧迫　　実際にＡＥＤを使う

(2) 令和5年8月18日（金曜日）

・昼休みに、友だちと遊んでいた児童が急に息苦しさを訴えるという事例を設定。観察すると蕁麻疹（じんましん）が全身に広がり管理職・保護者へ連絡。腹痛や嘔吐をするが意識はある。すぐに救急車を要請、児童の意識は薄れていく中、教職員はどういう動きをするのか、緊急時対応セットはどこにあり、何が入っているのか等、養護教諭不在の中でチームで対応できるように役割を決め実際に行う。

緊急時対応セット

ASUKAモデル動画視聴・演習

息苦しいと担任に訴える　　救急車到着まで経過観察

3　成果と今後の課題等

（1）成果

安全教育に対する安全意識の向上につなげようと、日本赤十字社と連携した救急蘇生法講習会と校内研修での緊急時対応研修を実施した。6月から水泳学習もあるため、水泳学習が始まる前にＡＥＤの使い方も理解しておく必要がある。児童だけでなく、教職員にも日常的に児童の安全について意識をもってもらうため、一緒に講習会を受けてもらった。児童の発達段階に応じた講習会となるよう日本赤十字社の方から講話と実演を行っていただいた。危機管理能力が問われる現代において、人命救助の際、自分がどう行動すればよいのか、救急車が到着するまでの間にどんなことが共助になるのか、自分で考えるよいきっかけになった。教職員はこれまでにもＡＥＤの講習は受けているので、児童が実際に使うことに重きをおいた。ＡＥＤを使った心肺蘇生法は児童の身近な所でも起きる可能性はある。体験を通して、勇気を持って人命救助にあたれる資質を今後も身につけてほしいと思う。

教職員は、養護教諭が不在時に、急に体の不調を訴える児童への緊急対応を実践した。児童はいつ、どこで命の危険にさらされるか分からない。自分の担任していない児童でも落ち着いて対応ができるようにシュミレーションの機会を設けておくことは不可欠である。どこに救急グッズが備えられているのか、普段から知っておくよい機会となった。

（2）課題

いつ、どこでも人命救助ができる判断力を養うため救急蘇生法講習会を設定した。児童には自助について指導することが多く、共助の体験は少ない。実際に胸骨圧迫やＡＥＤを使った人命救助を行うことで一人の命が救われることを体感できた。また、今回見えてきた課題を基に、今後の安全教育の充実につなげたいと考えている。

緊急時対応研修では、児童の命を守ると同時に、教職員自身の命を守るためのものであることを、養護教諭がしっかり押さえていた。どんな場合でも落ち着いて対応ができる教職員集団、チームとしての意識を強く持ち日々の指導にあたりたい。

一覧にもどる

取 組 名	校区安全委員会		
特　　徴	関係諸機関・地域・児童が安全に関する熟議を行った。		
学 校 名	下関市立養治小学校	期日	令和5年6月18日（日曜日）

1　ねらい

○　身近にある危険箇所について調べる活動を通して、安全についての意識を高め、安全に登下校したり地域で過ごしたりすることができる。また、登下校時の態度やあいさつ活動の模範となることができる。

○　関係機関や地域の方々と児童を交えての熟議をすることを通して、様々な立場の考えを知り、安全についての意識を広めることができる。

2　概要

（1）6年生による危険箇所等プレゼンテーション作成

・「身近な危険箇所」「自転車の乗り方」「あいさつの現状」について調べるため、6年生を3つのグループに分けて学習を進めた。

・テーマ別に3つのグループに分けたが、校区全体の現状を把握するために、登下校時や放課後等にそれぞれの生活圏で気付いたことを共有するようにした。

・共有した情報をもとに、総合的な学習の時間にプレゼンテーションの作成を行った。

（2）校区安全委員会での熟議

・6年生が調査して感じた各テーマの課題について、プレゼンテーションを行った。

・6年生の課題提起をもとに、警察や民生委員、学校運営協議会委員等、様々な関係機関の方々が6年生と一緒に6つのグループに分かれて熟議を行った。

・各グループで出された改善策や新たな課題について全体で共有した。

6 年生によるプレゼンテーションの様子

熟議の様子

全体での情報共有の様子

（3）夏季休業前の啓発活動

・各グループから出された意見をプレゼンテーション資料に加え、6年生から全校へ呼びかける動画を撮影した。

・撮影した動画は、ロイロノートで見られるようにして、夏季休業になる前に各学年で視聴してもらった。

3　成果と今後の課題等

・教職員の立場から見える危険箇所だけでなく、児童や保護者、関係諸機関の方などの複数の立場から考えることで、様々な視点に立った考え方を知ることができた。

・3つのテーマについて熟議を行ったが、話し合う内容や呼びかける内容が多くなった。継続して安全等について呼びかけを行うことができるように、テーマを絞るとよいと感じた。

一覧にもどる

取 組 名	よしみ地区合同地震・津波避難訓練		
特　　徴	毎年行われる防災士による防災教室と関係機関と連携し、 吉見地区（中学校区）全体で行う合同地震・津波避難訓練		
学 校 名	下関市立吉母小学校	期日	令和5年10月24日（火曜日）

1　ねらい

○　地震・津波等の災害が発生したときに、自分の身を守るための行動ができる。（自助）

○　地域全体で防災訓練を行うことにより、海に隣接する地域としての防災意識と近隣同士で助け合う連帯感を高める。（共助）

○　自分の命を守るだけでなく、学校や地域の安心・安全を支える一員としての自覚をもち適切な行動がとれるようにする。（共助）

2　概要

(1) 取組の流れ・様子

よしみ地区合同地震・津波避難訓練実行委員会・吉見地区まちづくり協議会主催で行う訓練である。参加団体は、吉見地区（吉見・吉母・蓋井）各自治連合会や警察・消防関係、海上自衛隊下関基地、水産大学校等多岐にわたる。吉母地区では自治連合会、消防団吉母分団吉母公民館、防災危機管理課等と主に連携・協力して行った。

吉見地域は広域で、島も含まれるので、当日は、吉見・吉母・蓋井の３地区毎の訓練となる。しかし、地震発生と津波警報発令時刻は全地域で揃え、一斉避難を始めている。各地区で多少の違いはあるが、例年避難訓練後に各地区の体育館等で自衛隊や消防署に講師をお願いし、災害時の応急手当の仕方や簡易担架の作り方等を学んでいる。

(2) 当日の流れ

8:25～8:35　地域在住の防災士の方による防災教室（毎年開催）
「地震発生時にいちばんにすることは何？」等クイズ形式で行動確認

13:35　地震発生（緊急地震速報）　→　掃除中のため各自で机の下等で頭を守る。
【第一次避難】放送で運動場へ避難（基本の避難場所）

13:45　津波警報発令　発令後、消防車によるサイレンや避難呼びかけ
【第二次避難】津波の大きさにより
・校舎3階または吉母公民館に避難
・教職員の車に分乗し、地域高台に避難のいずれか。今回は吉母公民館避難
校長、下関市防災士連絡会長の講評・指導

14:00　小学校体育館で子育て支援団体ボランティアによる防災ecoキャンプ講座「避難所生活で必要なものは？水、食べ物、火、シェルター」等
トイレ・キッチン・ベッドの大切さ、テント設営・段ボールベッド体験等

防災ecoキャンプ講座の様子

避難時にあるとよいもの

児童のテント設営体験

地域の方の段ボールベッド体験

3　成果と今後の課題等

・地域在住の防災士の方に毎年お話ししていただいている。繰り返し伝えられること、新しい内容等工夫されているので、災害時に取るべき行動や小学生でも自分で判断しないといけない場合があることなど児童の記憶にしっかり残っている。

・避難訓練後の講座は、地域の方と一緒に学ぶ場となっている。地域全体で防災に関する知識を高めている。今後も継続して取り組んでいくことを大切にしたい。

一覧にもどる

取 組 名	全校児童参加によるAED講習と学校の危険個所クイズの作成・発表		
特　　徴	調べ学習や発表など、児童を中心に据えた安全教育の充実とICTの活用		
学 校 名	萩市立佐々並小学校	期日	令和5年6月17日(土曜日)　他

1　ねらい

○　自分の命を自分で守ろうとする意識を高めることができる。(自助)
○　災害が起こった際の組織的な安全管理体制を構築することができる。(共助)

2　概要

(1) 全校児童参加によるAED講習

・令和5年6月17日(土)の参観日に、救急法を学ぶAED講習会を実施した。例年は、保護者・教職員対象の講習会であったが、今年度は1年生～6年生までの全校児童も一緒に参加し、自らの命を自ら守るために主体的に行動できる力を育む場となるようにした。
・実施が難しい下学年児童も、大人や上学年児童が実際にAEDを使って行う姿を見ながら、いざという時に周囲の者は何をすべきかを学ぶことができた。大人と子どもがともに参加することで、家庭での話題にもつながった。

AED を使って学ぶ児童の様子

(2) 学校の危険個所クイズの発表～タブレット端末の活用～

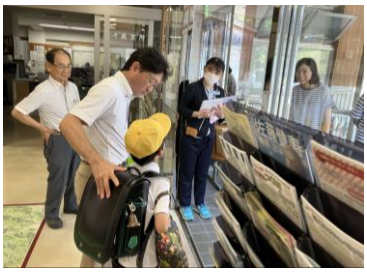
・令和5年10月21日(土)の学校保健安全委員会において、3～6年生の保健委員会児童が、児童・保護者・地域・教職員の前で自分たちで調べて作った「学校の危険箇所クイズ」の発表を行った。
・事前に学校内を周りながら、校舎内の曲がり角などの注意が必要な箇所をタブレットで撮影し、それらの画像を使ってロイロノートにクイズ内容を入力して完成させた。
・今後さらに、校区内の危険個所クイズやマップ作りなどにも発展させることができる取組となった。

タブレットを片手に発表する児童の様子

(3) その他～児童引き渡し訓練・地震火災想定避難訓練における煙体験～

・その他、地域の佐々並川の氾濫を想定した引き渡し訓練や、地震火災想定避難訓練における煙体験など、児童自身が体験を通して、その危険性や対応を学ぶ学習の場を設けた。

引き渡し場所(地域の公民館)へ避難する様子



迎えの確認をする児童の様子

煙体験での児童の様子

3　成果と今後の課題等

・年間を通じた様々な活動において、児童主体の安全教育の場となるようにすることで、自分の命を自分で守ることの大切さをより実感させ、日頃から安全に配慮して生活する実践意欲を高めることにつながった。今後も家庭・地域と連携し、より安心・安全な学校づくりに向け、教職員一人ひとりの危機管理意識を高めながら組織的に取り組んでいきたい。

一覧にもどる

取 組 名	消防本部と連携した火災対応避難訓練		
特　　徴	事前に教職員の研修を行ったうえで避難訓練を行った。		
学 校 名	長門市立向陽小学校	期日	令和5年11月22日（水曜日）

1　ねらい

○　火災対応に対する教職員の意識と知識を高めるために、消防本部と連携をし、火災対応避難訓練の前に教職員対応の座学と実地研修を行って、児童対応の避難訓練に対する意識の高揚を図る。

○　避難訓練後に消防本部による「防火学習会」を行い、体験活動等を行うことでより実践に近い訓練とする。

防火設備等についての事前研修

2　概要

（1）消防研修Ⅰ

・夏季休業に消防士より校内にある防火設備等について座学による研修を受けた。自動火災報知機、感知器、受信機、発信機、消火器、防火扉、消火栓などについてそれぞれの意味や用途の説明を受けた。

（2）消防研修Ⅱ

・消防研修Ⅰをもとに、実際の防火設備を操作する研修を受けた。受信機に関しては、身近でありながらも、緊急音の止め方や出火場所の確認、その時の動き等分かっていないこともあり、良い研修となった。また、消火栓は、職員が自ら使用するという認識が薄く、そうではなく積極的に使わなければならないという事実に驚いた。消火の訓練時だけでなくプール掃除等で使用し、慣れておくことも大事であると学んだ。

防火扉について

受信機について

消火栓について

消火栓からの放水

（3）火災対応避難訓練（消防研修Ⅲ）

・当日は、消防士が4名来校し、出火場所の初期消火の様子、受信機の操作や通報の様子等についてご指導いただいた。「児童は、教師の行動や指示さえ正しければ助かる。つまり、教師の正しい知識と判断・指示が一番重要である。」ということを痛感した。また、避難後は「防火学習会」として児童の発達段階に応じた体験型の学習を行っていただいた。煙体験・避難経路にある防火設備、消火栓使用等、体験を通しての学習は、より児童たちの心に残ったようである。

煙体験

避難経路にあった防火設備

消火栓からの放水

3　成果と今後の課題等

避難訓練当日のみの実践でなく、教職員が事前に研修を受け、当日の訓練により深い意識をもって取り組めるという点で大変効果があったと思われる。本取組は、市内では最初であったが、消防本部としては、他校や他施設等で実施を広げたいと考えておられるので、多くの教職員の知識や意識が深まることが期待できる。

一覧にもどる

取 組 名	土砂災害・河川氾濫対応避難訓練		
特　　徴	土砂災害を想定した避難訓練と防災ゲーム（クロスロード）を取り入れた防災教室		
学 校 名	長門市立俵山小学校	期日	令和5年9月8日（金曜日）

1　ねらい

○　児童と教職員が、連日の降雨による土砂災害および河川の氾濫に対して、安全且つ迅速に避難できるようにする。

○　万が一の災害に備えて、日常の安全確保に努めようとする意識を高める。

2　概要

(1)　『防災テキスト』や『危険予測学習（ＫＹＴ）資料』を活用した事前学習

・本校の校舎の西側は、土砂災害警戒区域である。『防災テキスト』を児童に配布したりクラス担任にタブレットで学習できる危険予測学習（ＫＹＴ）資料を紹介したりして、土砂災害や河川氾濫による危険性と避難の仕方について学んだ。

(2)　土砂災害・河川氾濫対応避難訓練の実施

・避難訓練その１

校舎西側、プール横で土砂崩れが起こる危険性が高まったと想定し、指定緊急避難場所である「多目的交流広場（ヤマネスタジアム俵山）」に避難する準備を始めるように緊急放送で伝えた。その後、がけ崩れで避難場所へも移動できなくなったことを伝え、校舎内でできるだけ安全な場所へ避難した。

・避難訓練その２

教職員の車で避難する場合を想定し、あらかじめ決めた教職員の車に乗り込めるようにすばやく並んだ。

(3)　防災ゲーム（クロスロード）を取り入れた防災教室

・長門市役所防災危機管理課　地域防災マネージャーを講師に迎え、クロスロードゲームを取り入れた防災教室を行った。防災ゲームを通して、子どもたちは、土砂災害の危険性が高まった場面での行動判断について考えることができた。ＡとＢの行動を選択して体を動かしたり、選択理由について話し合ったりしながら、一人ひとりが緊急場面をイメージしながら学習することができたのは、大変良かった。

防災教室の様子

3　成果と今後の課題等

○　避難訓練で、児童が放送を静かに聞き、落ち着いて行動できたことや、ゲーム形式の学習により具体的な場面をイメージして学べたことが成果としてあった。

○　避難時の教室内での「避難場所」「持ち物」「教員の動き」の確認が各クラスで曖昧だったことから、教職員同士の再確認が必要であった。また、日時などを知らせないブラインドの訓練を段階的に行い、子ども自身が自主的に身を守る行動をとれるようにすることなどが、今後の課題としてあがった。

一覧にもどる

取 組 名	不審者対応避難訓練（一部ブラインド型）		
特　　徴	不審者が侵入する場所を告げず、その場の判断で行動する訓練の実施		
学 校 名	阿武町立阿武小学校	期日	令和5年6月20日（火曜日）

1　ねらい

○　不審者侵入時の対応に関して、警察や関係諸機関と連携した訓練を通して、危機に対する意識を高め、有事に沈着、冷静、機敏、協力して行動する実践力を培う。〈教職員〉

○　訓練の意義を理解して真剣な態度で臨み、いざという時にどのように行動すればよいかについて主体的に考えることができる。〈児童〉

2　概要

（1）事前指導

①不審者に遭遇する場所を想定し、どの経路でどこへ避難するか考える。

②避難の仕方（速やかに、足音を立てずに行う）を確認する。

【先生がいる場合】教職員の指示に従うこと

【先生がいない場合】放送を聞き、安全経路を選んで適切な場所に避難すること

（2）訓練の流れ（一部）

①不審者侵入。気が付いた職員が児童を隣の教室へ避難させ、不審者対応。隣教室の担任は途中教室があれば、避難を伝えながら現場から遠い方へ避難するとともに、職員室にも連絡する。〈児童管理と応援に分かれる〉

②職員室の職員や応援職員が、不審者のもとへ向かう。

③現場を確認した職員は、校長の指示を受けて、校内放送と警察への通報を行う。

④応援職員は、ほうき、いす、さす又などをもって駆けつけ、児童管理を担当する職員は、不審者がいる場所から離れた安全な経路を考えて児童を誘導し、迅速に避難させる。

児童管理が避難してきた児童の人数を確認して整列させている

さす又とほうきで不審者対応している

訓練の様子について警察の方と少年安全サポーターからお話を聞いている

3　成果と今後の課題等

本校はどの教室も外からの侵入が可能で、不審者の侵入が外側か廊下側か前か後ろかによって避難の仕方も変わってくる。侵入場所を告げないブラインド型にしたことで、職員室でいろいろな場所を想定した対応や避難の仕方をどうするか頻繁に話題に上っていた。不審者から子どもたちを守ること、そして、自分たちで安全な行動ができるようにさせなければという意識が高まり、教職員も児童もより自分事として緊張感をもって避難訓練に臨むことができた。

反省点として、不審者を発見して最初に対応した職員の異常を知らせる声が聞こえなかったこと、さす又の数が少なかったことが挙がったので、電子ホイッスルを教室の入口付近に設置し、さす又を2つ購入して計4つで対応できるようにした。今後は、火災、地震などについてもブラインド型の避難訓練を行い、安全に対する意識を高め、教職員も児童も正しく判断して主体的に行動できる力を付けていけるようにしていきたい。

一覧にもどる

取 組 名	地域で起こり得る危険から身を守る		
特　　徴	消防署や警察署との連携とＩＣＴの活用		
学 校 名	阿武町立福賀小学校	期日	令和5年7月5日（水曜日） 令和5年11月24日（金曜日）

1　ねらい

○　消防署や警察署の方から講義・実技指導を受けることで、危険から身を守る知識・技能を身に付けることができる。

○　子ども同士でＡＥＤの操作や安全マップを作ることで、自分でもできることを見つけ、安全意識を高めるようにする。【重点取組事項関連】

2　概要

(1) 救命救急法講習会

萩消防署による水の事故の恐ろしさや、事故が起こりやすいケース等についての講義を受けた後、心臓マッサージとＡＥＤの使い方についての講習を受けた。教員や保護者と一緒に行った実技では、子どもだけでは至らないことがたくさんあったが、大声で助けを呼んだりＡＥＤを取りに行ったりする等、自分でもできることを見つけることができた。

ＡＥＤの使い方の説明

心臓マッサージに挑戦

ＡＥＤの使い方に苦戦

(2) 安全マップづくり

学校近くの駐在所の方を招き、まず安全マップの活用の仕方を教えていただいた。最近話題になっているクマの出没が地域内で結構あることを知り、驚きとともに安全マップの必要性を感じることができた。その後、地域における交通事故（主に路面凍結）や自然災害（主に土砂崩れ）等が過去に起きた場所を教えていただき、安全マップ上に印とコメントをつける作業を行った。

駐在所の方による講義

県警のＨＰにある安全マップ

安全マップづくり

3　成果と今後の課題等

どちらの講義・実技指導も子ども自身が体験することで、自分事ととして取り組み、自分たちでできることはやろうという主体的な態度の育成につなげることができた。また、これらを「地域で起こり得る危険から身を守る」というテーマで関連させたことで、子どもたちの安全意識をより高めることができた。今後も関係機関を活用した安全教育を進めるとともに、火災や防犯等も含めた統合型の安全教育を推進していきたい。

一覧にもどる

取 組 名	保小中連携による　避難訓練（緊急時引き渡し訓練）		
特　　徴	小中一貫教育校である川上小、川上中に加え、保育園も合同で避難訓練実施		
学 校 名	萩市立小中一貫教育校　川上小学校	期日	令和5年6月17日（土曜日）

1　ねらい

○　児　童　大雨による土砂災害発生時の基本行動を身に付けることができるようにする。避難時の約束を守り、落ち着いて安全に避難できるようにする。

○　職　員　土砂災害発生時の対応、および、避難誘導等、基本行動について確認し、児童を保護者に確実に引き渡すことができるようにする。

○　保護者　緊急事態発生時の引渡し方法について確認し、安全かつ確実に児童を引き受けることができるようにする。

2　概要

○　川上地域で土砂災害発生の可能性があるため、小学生は校舎隣接の「川上体育館」に一次避難する。

○　小学校教員・小学校保護者は、川上体育館にて、児童の引き渡しを行う。

○　災害発生の危険が高まったため、二次避難場所の「川上公民館2階」へ全員（小学生・保護者・教職員）避難する。

○　同時刻、川上中学校生徒は川上保育園園児を引率の上、川上公民館へ避難する。

○　保小中全員（兄弟姉妹含め）の安全確認、引き渡しが完了した後、解散する。

※今回は、スクールガードリーダーの講話を拝聴した。

小学生は川上体育館に一時避難

小学生保護者へ引き渡し

中学生は保育園児と避難

川上公民館で園児・生徒引き渡し

スクールガードリーダーによる講話

3　成果と今後の課題等

○　保小中及びその保護者が連携し、互いに危機意識を共有しながら緊急時の対応をスムーズに行うことができた。

○　小学生は、中学生と保育園児が一緒に避難する姿を見て、自分たちにもできることを考えるようになった。

○　二次避難により、全員一か所に避難したことで、保小中の兄弟姉妹の引き渡しがスムーズであった。仮に、二次避難の必要がない場合の引き渡しについても検証を行う必要がある。

○　緊急時の保小中の連絡体制を構築しておくことが必要である。

一覧に
もどる

取 組 名	美和町小・中・高合同防災学習		
特　　徴	校区内の小学校及び高等学校の児童生徒との合同防災学習		
学 校 名	岩国市立美和中学校	期日	令和5年6月19日（月曜日）

1　ねらい

○　防災に関する学習を実施することにより、児童生徒が火災や川の氾濫、土砂崩れ等の災害に対する理解を深め、自らの命を守ることができるよう、的確に行動できる実践的な態度を培う防災教育の充実を図る。

○　児童生徒が身に付けた知識を各家庭に持ち帰り、各家庭で防災に関する「家族会議」を開くきっかけとする。

2　概要

美和東・美和西小学校5，6年生（40名）、美和中学校全校生徒（56名）、岩国高等学校坂上分校1年生（17名）の児童生徒（合計113名）を対象に、「ハーモニーみわ」にて合同の防災学習を実施した。

毎年行われる取組であるが、今年度は、山口県土木建築部砂防課職員の方を指導者として次のような内容の学習に取り組んだ。グループワークでは、10班に分かれた小・中・高の児童生徒が、同じグループの中でハザードマップを使って自宅から避難場所への経路を確認する作業を行った。

講話の様子

(1) 講話

・映像教材視聴
・ハザードマップについての学習
・水害・土砂災害についての学習

(2) グループワーク

・避難経路の確認（自宅から避難場所まで）
・グループからの報告

グループワークの様子

3　成果と今後の課題等

・小5から高1までの約100名が早めの避難を行えば、家族や地域住民の迅速な避難につながる可能性がある。共に学習することで、集団としての役割を意識することができた。
・図上演習としての取組であったが、今後可能であれば近所同士のグループに分かれ、一緒に避難経路を歩いてみることで、より実践的な態度を培うことができると思われる。

一覧にもどる

取 組 名	避難訓練・防災訓練		
特　　徴	町ぐるみでの避難訓練、防災士や地域の方と連携した防災訓練		
学 校 名	和木町立和木中学校	期日	令和5年5月30日（火曜日）

1　ねらい

○　想定される地震･津波に対する避難訓練を行うことを通して、自分の命を守る行動の意識（自助）と、みんなで避難する態勢(共助）を 確認理解する。

○　自分の命を守り、人々の生活に寄与できる中学生であるために防災訓練を体験し、防災知識を習得する。

2　概要

（1）和木町役場と連携し、町ぐるみでの避難訓練を実施した。

（大雨洪水警報発令を受けての避難訓練）

・和木町役場企画総務課が「高齢者等避難」を発令し、企画総務課→町教委→園、小、中と電話連絡を行った。

・避難計画に基づき、小学生は小学校の校舎3階へ、中学生、園児は中学校のグラウンドに集合し、中学校の校舎3階へ避難する（中学生1人につき、園児1～2人を連れて上がる）予定であったが、当日は荒天のため、園、中それぞれの校舎で避難を行った。

・避難完了の連絡後、消防署員からの避難の状況に係る指導を受けた。

受指導の様子

（2）3年生に防災訓練を、防災士、地域の方と連携して実施した。

・活動1　グループワーク

中学校の体育館に避難所が開設されたとき、中学生として「私たちに何ができる？」をテーマにグループ活動を行い、自分たちのできることを、付箋を使ってペーパーにまとめた。各グループに地域の方がアドバイザーとして入り、また、防災士の方が全体を巡回し、グループ活動の支援を行った。

・活動2　グループ対抗・防災クイズ

防災士の方が、防災に関する○×クイズを出題し、グループごとに回答しながら防災についての基礎知識を学んだ。

・活動3　カタリ場

活動1のグループワークでまとめたことを題材に、中学生と地域の方、防災士の方が自由に意見交換を行った。

活動１　グループワーク

活動２　防災○×クイズ

活動３　カタリ場

3　成果と今後の課題等

○　講師の防災士の方が準備からすべてを行ったため、教員の視点ではなく、専門的な視点でグループワーク、○×クイズを行うことができた。

○　地域のことをよく知る地域の方がアドバイザーとして助言を行うことによって、生徒の思考が深まり、より具体的な行動を想定して活動することができた。

一覧にもどる

取 組 名	専門家等と連携した防災ワークショップ		
特　　徴	専門的なワークショップを保護者・地域に公開し、生徒とともに考える機会を設けることで、学校を中心とした地域防災の取組への一助とする。		
学 校 名	柳井市立大畠中学校	期日	令和5年11月28日（火曜日）

1　ねらい

○　架空の住居環境・家族設定のもと、大雨等の防災気象情報が発表された際、どのタイミングで、どのように行動するかなどの避難行動等について話し合うグループワーク活動を通して、防災への理解を深める。

○　保護者に対しては参観授業、地域に対しては公開授業とすることで、学校を中心とした地域防災の取組に向けた一助とする。

2　概要

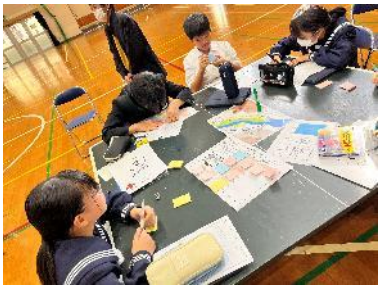
(1) 災害から身を守るための講義

・近年、県内外で発生した災害の状況確認及び大雨災害の危険性について。
・警戒レベルの把握による安全な行動選択について。
・適切な避難行動のために身に付けておきたい知識について。

(2) 大雨防災ワークショップ

・架空の住居環境・家族設定のもと、大雨等の防災気象情報が発表された際、どのタイミングで、どのように行動するかなどの避難行動等について、ハザードマップを見ながら注意報、警報が出る前、出た後の準備や行動についてグループで意見交換する。
・注意報、警報の各段階で実際にどのような災害が起こったのが書かれた地図を用い、先程自分たちで考えた行動について、どの段階でどのような行動を取ればよかったのかをグループで振り返る。
・振り返りの内容を全体での発表を通して共有し、個々の振り返りに繋げる。

【ワークショップの様子】


【意見交換中の生徒】

【成果物の掲示】

3　成果と今後の課題等

生徒の振り返りでは、「災害情報が流れた時は、情報によって家を出るタイミングやルート、持ち物の確認をした方が安心できると思いました」、「今まで、警戒レベルが4になるまで避難の準備や避難場所の確認をしていなかったけど、今回の授業を通して、早めに準備をしておくことが大切なんだなと思いました」など、防災への意識の高まりが見られた。また、保護者や地域の方の感想には、「決して他人事ではない災害に対して、どのように対処していくのか考える良い機会をいただけたと思います」、「実際に起こった災害をもとにして意見を出し合うのは、近年、災害の増えている日本にとって、とても有効な事だと思いました」など、生徒とともに防災について学ぶよい機会になったと考える。

保護者、地域の方の参加数も多く、引き続き家庭・地域との連携を図りながら、学校を中心とした実践的な防災の取組を広げていく必要があると感じた。

一覧にもどる

取 組 名	緊急時対応保護者への引き渡し訓練		
特　　徴	学校としての対応訓練と保護者と共同実施した引き渡し訓練		
学 校 名	周防大島町立大島中学校	期日	令和５年６月17日（土曜日）

1　ねらい

○　大きな災害・事件の発生時、確実に保護者への引き渡しができるとともに、災害時の自助・共助意識を向上させる。

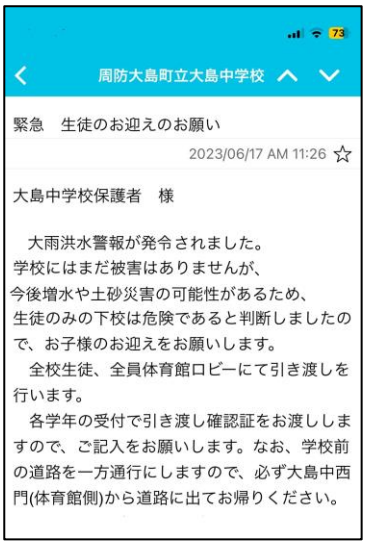
○　訓練を通して生徒の自然災害と防災に対する意識を高めるとともに、教職員の危機管理能力の向上を図る。

2　概要

(1) 災害発生想定

【大雨洪水警報が発令され、学校にはまだ被害はないが、生徒のみの下校は危険と判断し保護者に生徒を安全に引き渡し、下校することが必要と判断される。】

・災害の発生、体育館へ避難。
・状況確認、学校対応決定。
・本年度変更した「学校安心メール」による緊急メールの配信。



〈緊急メール配信〉

(2) 災害発生時の保護者との連携

【引き渡し訓練によって、子どもの命を守る訓練】

・引き渡し方法や避難経路・場所を確認する。

〈引き渡し訓練の様

3　成果と今後の課題等

(1) 成果

・実際起こりうる災害を想定した訓練を行うことで、災害発生時に必要な知識や適切な行動の認ができた。また、準備不足や不十分なこともわかった。そのことで、訓練の大切さがより実感でき、災害時対応の危機感や防災への意識の高まりがあった。
・保護者と共同実施をすることで、迅速な連携がとれるようになった。

引き渡し確認証　　周防大島町立大島中学校

引き渡し生徒氏名	年　組　氏名	
	年　組　氏名	
	年　組　氏名	
引き渡し日時	氏名	生徒との続柄(　　)
保護者氏名・連絡先	氏名	連絡先
避難（予定）先		
学校担当者　（印）		
備考　※ 健康状態など		

〈引き渡し確認証〉

(2) 課題

・引き渡し時の混雑や、避難時の交通の渋滞等、想定以上の問題が浮き彫りになった。「引き渡し確認証」をあらかじめ保護者に持っておいてもらうことや、その記載内容の吟味、交通の整理等、反省で出された意見や、今回の訓練でわかった課題を生かし、改善を加えながら、今後も継続した訓練を行っていきたい。

一覧にもどる

取 組 名	関係機関と連携した避難訓練		
特　　徴	地域の専門家を招聘した避難訓練（地震・津波、不審者、火災）を実施した。		
学 校 名	平生町立平生中学校	期日	地震・津波：令和5年5月17日（水曜日） 不審者：令和5年6月23日（金曜日） 火災：令和5年11月24日（金曜日）

1　ねらい

○　避難訓練において、地域の専門家による講話等を実施することにより、生徒が主体的に行動し、周囲の人や社会に貢献できる力を一層高める。

2　概要

(1) 地震・津波に対する避難訓練

・地域の防災士の方を講師に招聘し、講話・訓練を行った。地震・津波が発生したときの対処の仕方や、避難するときに注意点、南海トラフ地震の影響などについて理解を深めた。その後、実際に津波が発生した時を想定した避難訓練を実施した。

避難訓練前の講話

避難訓練後の講評

(2) 不審者に対する避難訓練

・柳井警察署の方を講師に招聘し、講話・訓練を行った。登下校中や不審者に遭遇したときの対処の仕方、最新の情報などについて、理解を深めた。その後、実際に不審者が侵入したと想定した避難訓練（バリケード設置）を実施した。

避難訓練前の講話

生徒によるバリケード作成

(3) 火災に対する避難訓練

・柳井地区広域消防組合の方を講師に招聘し、講話・訓練を行った。日頃から気をつけておくことや避難時における安全行動、最新の情報などについて理解を深めた。また、実際に学校（調理室）で火災が起きた時を想定した避難訓練を実施した。

避難訓練前の講話

避難訓練後の講評

3　成果と今後の課題等

○　地域の専門家から、非常時の対応方法や最新の情報等のご講話をいただいたり、実際の避難訓練の様子についてご講評いただいたりすることで、学校安全に対する意識が、生徒だけでなく、教職員の中で高まったと感じる。

○　本校では、年間を通して安全教育及び安全管理の充実に向けた取組を定期的に行っているが、今後は、保護者・地域住民が参加できる活動にすることをめざし、地域全体で安心・安全な学校づくりに向けた各種の取組を充実させていきたい。

一覧にもどる

取 組 名	地域と連携した合同防災活動		
特　　徴	コミュニティ・スクールの良さを生かし、防災の意識を高めた。		
学 校 名	下松市立末武中学校	期日	令和5年11月24日（金曜日） 令和5年11月27日（月曜日）

1　ねらい（合同避難訓練とＥＳＧ訓練）

○　学校の危機対応能力の強化と、「自助・共助・公助」の力を身に付け、安全に関する生徒の資質能力の向上を図る。

○　3年生を対象に、ＥＳＧ（避難所運営シュミレーション）訓練を行い、実際に本校の体育館が避難所になった際のレイアウト・運営を考えることができる。（公助）

2　概要

（1）鋼鈑幼稚園と合同の避難訓練

○　令和5年11月24日（金曜日）に鋼鈑幼稚園と合同の避難訓練を実施。中学校では、日時を告げずに、授業で緊急放送を流し、グラウンドに避難した。

○　生徒会執行部の3年生は幼稚園に園児を迎えに行き、中学校のグラウンドに誘導した。

執行部の誘導

グラウンドへの集合

緊急放送後の様子

（2）ＥＳＧ（避難所設営シュミレーション）

○　令和5年11月27日（月曜日）に3年生の全クラスで実施。

○　下松市防災士会の防災士9名によるコーディネートで班活動を行った。

○　各班で、検討したことをクラス全体で共有し、実際の場面での行動の確認をした。

班活動の様子

防災士の方々

クラスでの共有

3　成果と今後の課題等

・日時を告げない避難訓練であったが、生徒は落ち着いて避難行動を取ることができた。園児の誘導に関しても「共助」の精神で行動できた。

・ＥＳＧについては、下松市防災士会の防災士の方が、丁寧に説明等をしていただいた。生徒にとっても避難所を設営する際の注意点について深く考えることができる貴重な体験となった。

一覧に
もどる

取 組 名	防災学習（1年生）		
特　　徴	防災関係の専門家による講義や実習の積極的活用		
学 校 名	光市立大和中学校	期日	令和5年9月～12月

1　ねらい

総合的な学習の時間に、「自分の命を守り、地域の力になれる中学生になろう！」をテーマとして防災学習に取り組んでいる。防災に関する正しい知識を身につけるとともに、学んだことをもとに、地域社会の一員として自分にできることを考えて実践する意欲を高めることをねらいとしている。

2　概要

(1) 令和5年9月21日（木曜日）「専門家と連携した防災出前授業」

大島商船高等専門学校の先生に来ていただいて、講義・実習を行った。

・自然災害発生のメカニズム
・災害発生時の行動や災害発生に備える準備物
・防災グッズの見学及び体験
・ロープワーク

防災に関する講義

防災に役立つロープワーク

(2) 令和5年9月22日（金曜日）「ひかり環境未来塾」

気象予報士・防災士の先生に来ていただいて講義を行った。

・近年の気象状況
・地球温暖化がもたらす気象の変化
・気象に関するクイズ

気象状況に関する講義

気象に関するクイズ

(3) 令和5年9月29日（金曜日）「出前講座創りんぐ光」

光市防災危機管理課の職員に来ていただいて実習を行った。

・平成30年7月豪雨
・避難所で使う段ボールベッドやパーテションの組み立て
・避難所レイアウトの検討

段ボールベッドの組み立て

避難所レイアウトの検討

3　成果と今後の課題等

学習前に行ったアンケート調査では、生徒の防災に対する当事者意識は低かったが、学習を進める中で、正しい知識が増えていくとともに、自分事として考えることができるようになってきている。

12月には、東北大学非常勤講師・齋藤幸男氏による避難所運営ワークショップを計画しており、防災への当事者意識や実践力を高めていきたい。

学習内容を文化祭で発表

一覧にもどる

取 組 名	生徒が主体となった安心・安全マップづくり		
特　　徴	ヒヤリハットを即座にマップへ！ タブレット端末（Chromebook）を活用した宮野安全マップづくり		
学 校 名	山口市立宮野中学校	期日	必要に応じて随時

1　ねらい

○　生徒が地域貢献のために、生徒会を中心として地域の課題を考え、学校運営協議会の熟議に参加して課題解決方法の助言を受けながら、企画・実践することにより「宮野愛」を育んでいく。

○　自分たちの住む地域の危険箇所を再確認しながら生活安全・交通安全の意識を向上させるとともに、地域に必要とされている安全マップづくりに取り組む。

2　概要

(1) 2023宮野愛プロジェクト10の設定

・　2023生徒会がスタートするにあたり、各委員会で地域貢献できることは何かを考え、その企画・立案を行った。その際、自分たちで考えるだけではなく、地域交流センターに出向き、地域の方々の声も参考にした。

・　総務委員会では、地域に危険箇所のマップがないという声を取り上げ、通学路の危険箇所を調べ、場所と内容が分かるような安全マップづくりに取り組むことにした。

【学校運営協議会での熟議】

(2) 第1回学校運営協議会での熟議：5月31日(水曜日)

・　熟議において生徒会スローガン「結」の説明を行うとともに、3つのプロジェクトの概要説明を行う。

・　宮野安全マップづくりのグループでは、総務委員長を中心にマップの内容を検討するとともに、大人の視点から作成手順や必要な項目のアドバイスを受けた。また、高齢者や小さな子どもを持つ保護者の意見など、地域の声を聞くこともでき、地域に必要とされているマップにつながった。参加した生徒からは「話すことで企画に対する不安がなくなった」「もっと地域の方々と連携したい」「地域のためにもプロジェクトを成功したい」という声を聞くことができた。

(3) 1学期終業式においてマップづくりの説明：7月20日(木曜日)

【委員長による説明】

・　委員会で協議を重ねた結果、タブレット端末を活用して登下校時の危険箇所や日常生活の中でヒヤリとする箇所を即座に記録する。危険箇所の集約にはHondaのSAFETY MAPを活用することとした。

・　終業式の中で総務委員長から全校生徒へマップづくりのプレゼンを行い、宮野愛プロジェクト「宮野安全マップづくり」がスタートした。

【安全マップ】

3　成果と今後の課題等

・　熟議で地域の方々と意見を交わすことは、生徒が知らない地域の声・視点が加わるとともに、より地域の実情にあった安全マップづくりにつながった。

・　週末や長期休業中に持ち帰らせているタブレット端末を活用したマップづくりは、生徒一人ひとりがヒヤリと感じた危険箇所を即座に記録することができ効果的であった。

・　生徒自身が通学路や日頃使っている道路に潜む危険箇所の再確認をするとともに、交通安全の意識を向上させることができた。

・　安全マップ内の危険箇所をどのようにして整理していき、活用しやすいものにしていくのかを生徒とともに検討していく必要がある。

一覧に
もどる

取 組 名	幼保小中同一日引渡し訓練		
特　　徴	お互い近隣にある兄弟関係のある幼保小中が同一日に、引渡訓練を実施することで、実際の引渡しにかかる時間や動線の確認をする。		
学 校 名	防府市立牟礼中学校	期日	令和5年5月24日（水曜日）

1　ねらい（幼保小中合同引渡し訓練のねらい）

○　近隣にあり兄弟姉妹が通う幼保小中が同一日に実施することで、保護者が引取りに行く順や学校付近の道の混み具合、校地内での動線など、実際の動きに近い形で訓練ができる。

○　引渡しになった際の教職員の動きを確認する。

2　概要

（1）小中の兄弟姉妹が多く在籍している　→　同一日に実施してはどうか？

○　昨年度までは、小中が別々に引渡し訓練を実施していたが、実際に引渡しが必要になる場合は、同一日になることから、今年度は小中で同一日に引渡し訓練を設定。

○　小中で引渡し訓練を計画しているときに、小学校の近くの幼稚園・保育所から一緒に引渡し訓練をしたいという要望があった。

○　幼保小中で、同一日に訓練することで、おそらく最後に迎えに来られる中学生が、どのくらいの時間待つことになるか確認する。

（2）令和5年5月24日（水曜日）幼保小中同一日引渡し訓練

○　同時刻に保護者へメール配信し、引渡し訓練を開始。

○　中学生は、一次避難として、体育館へ避難して保護者の迎えを待つ。

○　下の子どもから迎えに行くため、中学生を迎えに来るまでにどれくらい時間がかかるのか確認することができた。引渡しに参加した保護者は概ね30分程度で迎えに来られた。

○　今回引渡しに参加できなかった家庭の生徒には、実際に災害が起これば、迎えに来るまでに何時間もかかる場合があること、迎えに来たがそのまま避難になる場合もあること、そしてここで待つことも訓練の一環であることを確認した。

受付の様子

引渡しの様子

待っている生徒の様子

3　成果と今後の課題等

・当初の予定では、小中連携の一環で、小中のみの引渡し訓練の予定であったが、幼保からの要望があり、一緒に訓練ができたことは、非常に良かった。

・来年度は中学校区内に他にも幼保があるので、声をかけて一緒に実施できれば、さらに実際に近い形の訓練が可能となる。

・校内でも、出張等で教職員は不足している状況や管理職が不在などの条件を変えながら、実施する必要がある。

・引渡しの際、教職員だけで対応が難しい場合が予想される。ＰＴＡ役員等の支援を受けられる体制の構築も今後の課題である。

一覧にもどる

取 組 名	地震対応避難訓練		
特　　徴	防災アドバイザーによる講話と、避難訓練への助言		
学 校 名	宇部市立川上中学校	期日	令和5年6月28日（水曜日）

1　ねらい

○　地震発生時、安全・静粛・敏速に避難できるようにする。

○　防災計画に基づく避難体制の確立を図る。

○　地震や災害時の対応についての理解と意識の高揚を図る。

地震発生時のシェイクアウト訓練

2　概要

(1)　事前指導

○　学級担任は本訓練の目的を生徒に理解させ、具体的な行動について指導する。

(2)　地震発生

○　放送による地震発生音声が流れる。合図の緊急地震速報の音声により机の下等で身の安全を確保する。（シェイクアウト訓練）

(3)　避難訓練

①　揺れの収まりが想定される音声により、着席するなどして安否確認をする。

②　放送で体育館への避難指示が流れる。

③　可能であれば窓側の生徒はカーテンを開ける。また、廊下側の窓を開ける。教室の戸は閉めない。

④　教員は残留生徒がいないことを確認して、生徒の後から安全を確認しながら避難・誘導する。

⑤　避難完了までは無言、落ち着いて避難する。（体育館）

避難の様子

(4)　防災アドバイザーの講話と避難訓練への助言

○　避難訓練の様子を見ての感想と、阪神・淡路大震災の様子をもとに防災への心構えと準備、いざというときの行動についての講話を聴く。

体育館での講話「阪神・淡路大震災」

(5)　教室での振返り

○　避難訓練と講話の感想を書く。

教室での振返り

3　成果と今後の課題等

○　生徒の感想より、「防災教育で地震の際にどのような行動をとればよいかが分かった」「学んだことについて家族と話し合いをしたい」という感想が多くみられた。防災アドバイザーの立場の方から実際に起こった災害について話をしてもらうことで、生徒の心に深く印象に残ると同時に防災意識の向上につながったものと思われる。今後、地震のみならず、火災、不審者等の訓練を実際の現場を想定して工夫していき、生徒の幅広い対応力を高めたい。

一覧にもどる

取 組 名	小中学校合同通学路フィールドワーク		
特　　徴	小中学生が、地域の方の協力をいただきながら、通学路の危険について調べる		
学 校 名	美祢市立厚保中学校	期日	令和5年7月28日（金曜日）

1　ねらい

○　自分たちで作成した通学路安全マップをもとに、実際に通学路を見て回る活動をとおして、通学路に潜む危険性について確認するとともに、自分の身を自分で守るための行動について考えることができる。

○　地域の方と一緒に通学路を歩きながら確認することをとおして、自分たちで気づかなかった危険について気付き、地域とのかかわりの中で安全について考えることができる。

2　概要

（1）自分たちの通学路安全マップを作成する

○　令和5年6月29日に、厚保小学校・厚保中学校で集まり、各地区ごとに自分たちの通学路の危険個所について話し合い、通学路安全マップを作成した。

安全マップ作りの様子

（2）　作成した通学路安全マップをもとにフィールドワークを行う

○　7月28日に、各地区ごとに小学校５・６年生と、中学生が集まり、地域の方や警察の方と一緒に、通学路の危険個所について実際に歩きながら見て回った。

○　作成したマップと実際の様子を見比べながら危険について再確認を行った。

○　子どもたちが気づいていなかった危険個所について、地域の方や、警察の方の助言をいただきながら、新たにマップに書き加えていった。

安全マップを基にした危険箇所調査の様子

3　成果と今後の課題等

○　小中学生に加えて、地域の方も一緒に活動を行ったことで、中学生にとってリーダーとしての自覚と、地域の担い手としての意識が深まった。

○　校区がとても広く、地区ごとの状況が違うため、各地区の状況に応じた危険があることを学べたと同時に、それぞれの地区に応じた対応の在り方についてしっかりと考えていく必要がある。

一覧に
もどる

取 組 名	不審者対応避難訓練・保護者引き渡し訓練		
特　　徴	竜王中学校区4校合同で2つの訓練を行った。保護者に協力をしていただき、ＩＣＴを活用した。		
学 校 名	山陽小野田市立竜王中学校	期日	令和5年6月20日（火曜日）

1　ねらい

○　生徒や教職員が不審者に遭遇したときに適切な行動がとれるようにする。
○　危険を回避するための判断力・行動力や防犯意識を高める。
○　引き渡し訓練をとおして、冷静かつ迅速安全に行動できる力を育てる。

2　概要

(1) 不審者侵入

・近くのコンビニで強盗をした不審者が校地内に侵入し、生徒昇降口から生徒棟へ侵入しようとする。

(2) 不審者対応

・教職員が不審者侵入場所へ駆けつけて対応し、警察が到着するまでの時間をかせぐ。
・110番通報と校内緊急放送を行う。
・各教室では、椅子や机でバリケードをつくるなどの対応を行う。

(3) 引き渡し訓練（不審者逃走後）

・中学校区4校で同じ訓練を行う。
・混雑を避けるために学年ごとに時間をずらし、メール配信で保護者に知らせた後に引き渡しを行う。
・玄関前を受付とし、ジャムボードを使って各教室に知らせ、ドライブスルー方式で引き渡しを行う。
・交通整理と生徒の誘導を保護者（ＰＴＡ役員）に協力していただく。

不審者への対応のようす

引き渡し訓練の受付

保護者による車の誘導

3　成果と今後の課題等

・概ねスムーズに行うことができた。特に良かった点は不審者への対応が適切で、校舎内に入られなかったこと、110番通報が的確で早かったことなどがあげられる。また、引き渡し訓練の誘導員として保護者の協力を得たが、保護者は数人の生徒を知っていることで、よりスムーズに誘導できていた。多少の渋滞を招いたが、安全第一で行うことができた。
・校区内の訓練として、各校に不審者が現れ、それぞれの学校が引き渡しをする想定であったため、どこかの学校に不審者が侵入して逃走、そこから各校へ連絡して引き渡しをするという設定の方が現実的であった。次回はそのようなブラインド的な取組を試したい。

一覧にもどる

取 組 名	地域・公民館と連携して実施する防災訓練		
特　　徴	地域・公民館と連携して、地域における自分の役割を考える防災講座		
学 校 名	下関市立文洋中学校	期日	令和5年6月16日（金曜日）

1　ねらい

○　日々の備え（自助）から家族の防災力を高める。
○　地域の自治会の働きを知ってもらい、地域における自分たちの役割を考える。

2　概要

(1) 流れ

・13：40　帰りの会
・13：55　緊急放送・体育館移動
・14：10　防災に関する講演

明治安田生命	14：10～14：50（40分）【防災全般】
まちづくり協議会	15：00～15：30（30分）【文洋校区として考えたいこと】

・15：20　保護者へ一斉メール配信
・15：30　生徒は教室へ移動
・15：40　生徒引き渡し訓練（待機中は読書・学習）
　※車で来校の保護者はグラウンドに駐車する。
　※教室で受付、生徒引渡し

防災に関する講演

(2) 公民館との連携

・文洋中側の伊崎地区では過去に大雨による土砂災害を経験している。
・西部公民館と文洋中学校は地域の避難所であり、有事の際には地域住民と連携して、学校と地域が一体となって防災機能を発揮する必要がある。公民館と共催で実施することにより、地域の防災機能を高めることになると考えた。

(3) 地域の防災士による講座

・地域の防災士をお呼びして、質疑形式での講座をお願いした。また、しもまちアプリを使ってどこの避難所が開設しているかを確認する等、有事を想定した講座となった。

防災士による講座

3　成果と今後の課題等

自分の住む町がどんな防災機能を持っていて、有事の際に何をすべきか考える機会になった。地域全体に高齢者が多く、中学生は守られる側というよりは守る側に立つことが多いと思われる。本講座には、地域の方はあまり多くは来られなかったので、次年度は、高齢者も含めた地域住民の参加数を増やせるよう広報し地域の防災力を高めたい。

一覧にもどる

取 組 名	生徒を対象としたＡＥＤの使用を含む「応急手当講習会」と「着衣泳」		
特　　徴	地域の関係機関やボランティアの協力による「命」を守るための専門的実習		
学 校 名	萩市立萩西中学校	期日	令和5年7月 6日（木曜日） 令和5年7月13日（木曜日）

1　ねらい

○　子どもたちが、自他の命を自ら守るために主体的に行動する意識を高める。

○　夏休みを目前に控えた時期を捉え、ＡＥＤの使用を含めた応急手当の意義を理解し、実施方法を身に付ける。

○　着衣の状態で「浮いて待つ」感覚をつかむ。

2　概要

(1)　ＡＥＤの使用を含む「応急手当講習会」

・令和5年7月6日（木曜日）、保健体育科の授業で3学年を対象にクラスごとに実施。講師は萩市消防本部警防課より消防士2名を招聘した。

・1時間目は、萩市消防本部が作成した資料を基に講義。前半は、応急手当の意義や心停止の予防、また一次救命処置（心肺蘇生とＡＥＤ）などについて、学校で使用する教科書の内容をさらに詳しく、また現場での経験等も聞きながら学習した。後半は、講師が人形やAEDを使用して、処置の仕方や器具の使用方法を実演する様子を見て理解を深めた。

・2時間目は、生徒が人形とＡＥＤを使用しての実技を行った。必ず一人1回は心肺蘇生やＡＥＤを使用する経験をした。

講師による指導講話

心肺蘇生とＡＥＤの実習

(2)　「着衣泳」

・令和5年7月13日（木曜日）、保健体育科の授業で3学年を対象にクラスごとに実施。講師は地元消防士5名の有志による協力。

・着衣泳は「浮いて待つ」ことをねらいとして行った。導入では、着衣のまま流れがあるところに落ちるとどうなるかという体験をした。クラス全員でプールの中で円を描くように歩き、水の流れをつくった状態で向きを反対に変えることで、着衣の状態では体を思い通りに操作することの難しさを実感した。

・本時では人間は水面に2%のみ浮くことができることを学び、呼吸を確保する練習をした。衣服は浮力体や保温効果として活用できることも学んだ。最後は5分間呼吸を確保するテストを行った。

講師による実演と指導

「浮いて待つ」感覚の実習

3　成果と今後の課題等

・「応急手当」と「着衣泳」を1つの単元として行った。学習指導要領の「生涯にわたって心身の健康を保持増進する」という観点から、この二つを関連づけて学習することは効果的であった。

・「応急手当」では、消防士というプロの実演を見ることや、実際に人形やＡＥＤを使用しての実技は、生徒にとって非常に興味深い内容であった。また、講師を含めて指導できる人数が増えることで、時間内に生徒一人ひとりが体験する時間を確保できた。さらに、生徒の実技では、役割を分担することで生徒同士に対話のある活動になった。

・「着衣泳」では5人という多くの指導者がいることにより、安全面が十分に確保できた。また、指導者が多いことで、一緒にプールの中に入って指導したり、実演をしたりすることもでき、生徒の技能向上にもつながった。

・地域の関係機関等の協力を得ながら取り組むことは、専門的な知識と技能を習得できるだけでなく、身近に頼れる大人が存在することを実感できるよい機会となった。また、地域の講師と互いに顔見知りになり、地域の人とのつながりを広げることができた。

・本校は、学校のすぐ近くに菊が浜海水浴場があり、学習内容が夏休み中の実生活で起こりうるリアルな内容であったため、高い意識をもって学習に臨んでいた。

・関係機関やボランティアの方への協力要請は、相手方の日程調整のことを考えると、年間計画を立てたすぐあとの4月下旬が好ましい。

・次年度も、義務教育の最後の水泳授業として、3学年を対象に継続的に実施予定。

一覧に
もどる

取 組 名	三隅地区合同避難訓練		
特　　徴	幼保・小中・地域・関係機関と連携した地震・火災避難訓練		
学 校 名	長門市立三隅中学校	期日	令和5年10月17日（火曜日）

1　ねらい

○　自他の安全に配慮しながら、指示や情報に従い、速やかに避難することができる。
○　消火訓練を通して、社会や他の人の安全のために貢献することができるようになる。
○　緊急時の連絡体制や役割分担等、状況に応じて連携を図りながら、生徒を安全に避難させることができる。（教職員）
○　地域の地理的条件等を意識した地震・火災の想定のもと、実際の災害の際に生徒が自ら安全に避難できるようにさせる。（教職員）

2　概要

（1）三隅地区の地理的条件を意識し、同じ想定のもと、幼保・小中・地域と連携した避難訓練

・三隅支所を拠点とし、三隅地区教育施設長連絡協議会で、実施に向けた協議を行った。
・地震による火災発生を想定し、それぞれの事象が同時に発生し、その状況に応じた避難方法を判断させ、課題解決的な学習を意識した訓練とすることができた。
・教職員の災害等発生時における連携体制を強化し、安全教育についての研修や経験を深めることができた。

（2）消防署予防課と連携し、屋内消火栓設備を活用した放水訓練

・屋内消火栓設備を活用した訓練を受けた教職員はほぼおらず、事前に予防課の方から指導を受け、生徒に的確に指導するための訓練を行った。
・2か所の屋内消火栓設備を活用し、生徒全員に放水活動を体験させた。実際に活用してみることで得られた知識と技術が、火災が発生した場合に自他の命を守ることにつながることを意識した訓練をさせることができた。

地震から身を守る訓練

煙から身を守りながら避難

屋内消火栓設備を使った放水訓練

3　成果と今後の課題等

消防署予防課の方との連携を密にし、屋内消火栓設備を使った放水訓練を計画・実施することができた。その過程において校内の屋内消火栓設備や他の避難設備をすべて確認し、適宜指導をいただくことができ、防火管理者、教職員ともに有意義な研修となった。

また、全校生徒に屋内消火栓設備からの放水を体験させ、自他の命や安全を守る当事者としての意識をもたせる訓練とすることができた。

来年度は、校舎に設置されている避難はしごを活用した訓練を消防署の方と連携し、計画実施していきたい。

一覧にもどる

取　組　名	日置みすゞ学園を中心とした組織連携による防災訓練		
特　　徴	地震発生を想定、津波災害に対応するため、日置地区全体での小・中・市・消防本部・教育委員会が連携した大規模な避難訓練を実施した。		
学　校　名	長門市立日置中学校	期日	令和5年10月2日（月曜日）

1　ねらい

○　地震が発生したことを想定し、日置地区小・中学校3校と長門市の防災体制の連携強化を図るとともに、児童生徒の防災意識の高揚を図る。

2　概要

（1）長門市で震度5の地震が発生したことを想定して、防災対策本部を設置する。

（2）防災危機管理課は、日置支所へ連絡する。

（3）日置中学校は、生徒・職員の身を守る行動を促す。

・机の下に避難指示、火気及び落下物の安全確認をする。
・職員の誘導で生徒をグラウンドへ避難させる。
・避難終了後、人員確認を行い、教育委員会へ避難状況を連絡する。
・消防署より　応急タンカ作成
　　映像視聴

（4）防災研修（講話・体験）

消防署職員による地震発生時の対応についての講話、及び、負傷者を搬送する方法の体験
・映像資料を用いて、地震発生時の対処法を考える。（長門市消防本部予防課）
・毛布を使って、負傷者を搬送する方法を体験する。（長門市消防本部予防課）

毛布を使って搬送する方法

毛布を使わずに搬送する方法

3　成果と今後の課題等

今年度も、日置みすゞ学園を中心とした日置地区のコミュニティで行われる災害避難訓練を実施した。地区内2つの小学校、本中学校の児童生徒が地震と津波を想定し、避難した後、日置支所、消防署、警察、教育委員会と連携し、合同で研修会を行うことで、児童生徒の防災意識と自分の身は自分で守るという意識の高まりを感じることができた。

負傷者を毛布を使って運搬する体験は生徒の心に深く残り、いざという時にも素早く対応できると思われる。

地区全体の大きな規模での取組のため、年に1回の合同訓練となるが、学校・地域・家庭が連携して、学んだことを次に生かすことができるよう日々の教育活動に反映していきたい。

一覧にもどる

取 組 名	災害安全（防災）の推進		
特　　徴	・中学校区合同学校運営協議会で、保護者・地域住民・児童生徒・教職員で災害図上訓練（ＤＩＧ）及び熟議を行った。 ・学校運営協議会での熟議を生かし、中学校家庭科の授業で、共助のための具体的な方法について、地域の方との話合いやロールプレイを通して考えた。		
学 校 名	周南市立福川中学校 周南市立福川小学校 周南市立福川南小学校	期日	令和5年8月25日（金曜日） 令和5年11月17日（金曜日）

1　ねらい

○　自分の住んでいる地区の土地利用の特徴や災害リスクを知ることができる（自助）
○　災害時に自分の身を守るためにできることや避難場所を考えることができる（自助）
○　災害時に地域の人々と協働する方法を考えることできる（共助）

2　概要

（1）福川小、福川南小校区の土地利用の特徴や災害リスクについての熟議

・令和5年8月25日（金曜日）に、福川中学校区合同学校運営協議会を実施。小中学校の教職員に加え児童生徒や地域の方、保護者が参加し、９グループに分かれ、福川中学校区の災害図上訓練（ＤＩＧ）を行った。
・地図上の川や道路に色を塗ったり、公官庁や病院にシールを張ったりしながら、大規模災害を想定して避難場所や避難経路について協議した。
・グループで出た意見を発表し、それぞれの校区の土地利用の特徴や災害リスクについて全体で共有した。

防災アドバイザーによるＤＩＧの説明

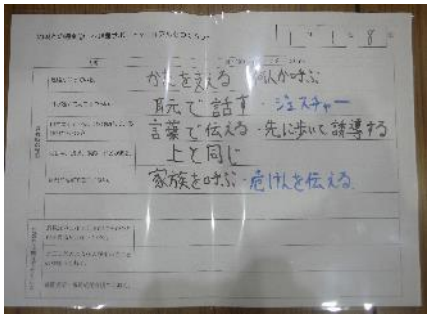
児童生徒を交えた熟議

全体での情報共有

（2）災害時に地域の人と協働する方法について考える学習（中学校　家庭科）

・早めの避難が必要な高齢者に、どのように避難を促すかについて地域の人と協議し、サポートマニュアルを作成した。
・作成したサポートマニュアルを基にロールプレイを行い、地域の人々と防災に取り組むために必要なことについて意見交換した。

サポートマニュアル作成のための協議



サポートマニュアル

ロールプレイ

3　成果と今後の課題等

○　ＤＩＧや熟議を通して自分たちの住む地区の特徴や危険性を知り、防災意識が高まった。
○　地域の人とのロールプレイや協議により共助の意識が高まり、地域防災に向けた方策を計画し実践する学習につなげることができた。

一覧にもどる

取 組 名	学校安全委員会		
特　　徴	生徒、地域、保護者との熟議及び生徒が指導者となる学校安全に関する危険予測学習（KYT）の実施		
学 校 名	萩市立見島小中学校	期日	令和5年11月22日（水曜日）

1　ねらい

○　学校における安全に関する問題を研究協議し、安全・安心な学校づくりを推進する。

2　概要

（1）地震・津波に関する島内一斉避難訓練

・令和5年10月14日（土曜日）に見島島内全体で地震・津波を想定した「見島総合防災訓練」を実施。本校は見島保育園と連携し避難。地域の消防団や航空自衛隊見島分屯基地が行った消火訓練を見学。避難を想定した炊き出しには本校児童生徒も参加。

（2）学校安全委員会

・令和5年11月22日（水曜日）に学校安全委員会を開催し、熟議や生徒が指導者となる学校安全に関する危険予測学習（以下、KYT）を実施。教員、生徒、地域住民、保護者が参加。

・熟議のテーマを「中学生が地域のためにできること～地震・津波の避難訓練を振り返って～」とし、「平日の日中の活動」「平日の早朝又は深夜や、休日での活動」について意見を出し合った。

熟議の様子①

熟議の様子②

・熟議の後、タブレット端末を利用し、生徒が指導者となってKYTを実施。山口県教育庁学校安全体育課HP内の資料をタブレット端末にダウンロードし、各グループで生徒が指導者となり、地域の方とイラストや写真に潜む危険について学習した。

KYTの様子

資料の画面

3　成果と今後の課題等

○　熟議では、「先ずは自分や家族の命を守るために行動してほしい」という意見のほかに、「小学生や保育園児、地域の方への声かけをしてほしい」という意見があった。

○　KYTでは「学校で実施している安全教育の一部を体験でき参考になった」「家でも小さな子どもがいるので、注意していきたい」といった意見があった。

○　3学期に実施予定の火災を想定した避難訓練で今回の意見を参考にするだけでなく、日常でも安全・安心な学校生活を送れるよう児童生徒、教職員の意識を高めていく。

一覧にもどる

取　組　名	交通事故、災害から自分の身を守るために！		
特　　徴	専門家による命を守るためのお話		
学　校　名	山口県立岩国総合高等学校	期日	令和5年10月～令和5年11月

1　ねらい

○　県民生活課から講師をお招きし、交通安全教室を実施。専門家の眼から見た交通事故防止方法を学習し、交通安全に対する意識の向上を図る。

○　防災士による講話により、学校や家庭において安全な生活を送るための、知識や態度を身に付ける。

○　警察と協力し、通学路での交通立哨を実施することで未然に交通事故を防ぐ。

2　概要

(1) 県民生活課員による交通安全教室の実施

・県民生活課の交通安全指導員により、事故の危険性について説明があった。特に自転車のルールやマナーについて、重点的に指導していただいた。

交通安全教室の様子

交通立哨の様子

(2) 自転車販売組合、警察による自転車点検

・警察署員と協力し、交差点の安全な通行について指導。特に右折車による交通事故が多いことから、右折車に留意して通行するように指導。

(3) 防災士による研修会

・防災士により、学校及び地域や家庭においても、常に災害に備えておくことが大切であることを学んだ。命の大切さにもふれていただき人権にも深く踏み込んで研修が行われた。

防災について研修

3　成果と今後の課題

○　教員では深い知識のない自転車のルールや防災についての考え方を指導していただいた。また警察官の方に、実際の立哨場所での具体的な危険行為等について聞くことができた。講話はわかりやすい内容だったので生徒もよく理解していたようだが、実際に行動にうつすことと、それを継続することが今後の課題である。

一覧にもどる

取 組 名	教職員を対象とした救命救急講習会		
特　　徴	アクションカードを活用した、緊急時に必要な処置や行動の訓練		
学 校 名	山口県立防府商工高等学校	期日	令和5年12月5日（火曜日）

1　ねらい

○　事故を未然に防ぎ、緊急時に必要な処置が適切にできるように、正しい救急法と蘇生法の知識と技術を身につける。

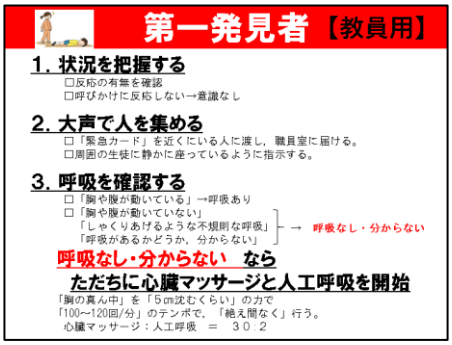
2　概要

（1）救命入門コースとして心肺蘇生法やＡＥＤの使用の講習を受ける。

（2）アクションカードを活用し、その内容及び行動や作業を確認する。

・アクションカード（救急車を要請するような、緊急事態発生時の判断を導き、行動を促すための事前の指導書）を見て思い起こしながら活動を進め、行動や作業の漏れをなくす。

ＡＥＤ講習



アクションカード

アクションカード活用

緊急対応セット

3　成果と今後の課題等

○　アクションカードを活用した緊急時の行動や処置の方法を学べた。

○　今後、生徒向けの講習も行う必要がある（生徒用のアクションカードは作成済み）。

一覧に
もどる

取 組 名	教職員の安全意識と危機対応能力の向上を図る		
特　　徴	想定外の危機の対応を考える教員研修（ICT活用）		
学 校 名	山口県立宇部西高等学校	期日	令和5年5月17日（水曜日） 令和5年10月11日（水曜日）

1　ねらい

本校では「通常レベル」と「緊急レベル（想定外レベル）」の２つに分けた危機対応能力の向上に向けた取組を行った。

○　研修会Ⅰ…管理職や危機対応リーダーが不在でも、誰もがリーダーになるための研修

○　研修会Ⅱ…本校で考えられる想定外の危機（震度６強以上の地震、特異火災、凶悪な不審者の侵入等）についての研修

2　概要

(1) 研修会Ⅰ（5 月 17 日）

・マニュアルや時系列対応表を活用して、教職員の役割を確認。また、負傷者の救出方法や担架での運搬方法、応急手当の仕方について研修。

・研修者の中から立候補でリーダーを決め、そのリーダーの指示のもと次の条件に対応するシミュレーションを行った。条件は地震発生により行方不明者発生、行方不明者は２人、５分以内に救助、捜索場所は校舎内とした。

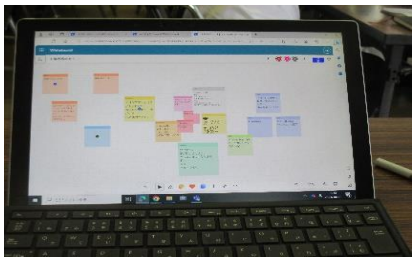
(2) 研修会Ⅱ（10 月 11 日）

・「震度６強以上の地震」「特異火災」「凶悪な不審者侵入」の３事案について協議。

・参加者は想定事案ごとに分かれ、本校で起こり得る事態を想定したのち、「どう対応するか」「その時の留意点」を熟議してもらう。熟議は、各自の指導者用タブレットを使用し、オンラインアプリ「Whiteboard」を活用した。

・班ごとに代表者が熟議内容を発表し情報を共有した。

端末を使用した班ごとの話し合いの様子



ブレーンストーミングでの意見交換

3　成果と今後の課題等

【研修Ⅰの成果】これまでは指示されて対応行動する立場が、自分達が指示者にならざるを得ない状況が生じることもあり、『自分がリーダーになった場合、何をすべきか』を考えるきっかけができ、そのことで事後の訓練に対する緊張感も生まれ、実効性の高い訓練につながった。

【研修Ⅱの成果】非常時を想定しての考察で、想像もしない意見が多く出されたが、ＩＣＴ活用により集約し易く、充実した研修会となった。別の成果として、想像した事態にならないための『未然防止策』が多く提案された。本校は調理実習や、農場実習など、凶器になりかねない器具を使用する場所も多いことから、「未然防止での観点の確立が大切だ」との声が多かった。危機対応は『未然防止策から始まる』ことを全員で共有できたことは大きな成果である。

【今後の課題】2回の教職員研修により、更なる危機管理意識の醸成がなされ、その後の二度の避難訓練でも、誰もがリーダー的視野で対応しようとするなど、これまでに感じられなかった真剣味や協力体制ができあがってきた。今後、今年度の研修を活かすために「未然防止策」の確立に向けた具体的取組を考える必要がある。

一覧にもどる

取 組 名	安全教育「事前に告げない防災避難訓練」		
特　　徴	生徒には日時や負傷者がいる状況等を告げずに、第1回は掃除区域に移動中の地震発生、第2回は負傷者を3名出して、防災避難訓練を実施。		
学 校 名	山口県立厚狭高等学校	期日	令和5年7月20日（木曜日）から 令和5年12月21日（木曜日）

1　ねらい

○　突然の地震とそれに伴う火災発生を想定し、避難場所まで整然と避難する訓練を行うことで、生徒の防災意識を高め、防災対応能力の向上を図る。

○　火災予防知識の向上と防火体制の整備を図ることにより、防火管理の徹底を期す。

2　概要

（1）第1回防災避難訓練の実施　令和5年7月20日（木曜日）

・　ＨＲから掃除が始まるまでの移動時間に、緊急速報を入れ実施。生徒には事前に伝達はしない。

・　山陽消防署の職員5名が5か所に立って、避難行動を観察し、改善点も含めた講評。

（2）第1回防災避難訓練後の消防署と連携した協議を実施　令和5年7月20日（木曜日）

・　避難行動の観察結果を踏まえ、教職員と生徒のそれぞれの行動の改善点を協議。

・　災害の状況によって違う対応について確認。

（3）危機管理マニュアルを見直しし、職員会議で配付説明　令和5年8月23日（水曜日）

・　消防署との協議を踏まえた火災発生時と地震発生時のマニュアルの見直し。

（4）第2回防災避難訓練の実施　令和5年12月21日（木曜日）

・　授業開始5分後に緊急速報を入れ実施。生徒には事前に伝達はしない。

・　各学年1名ずつ負傷者を出して、人員確認や救護手順等の対応訓練を実施。

> ◆　学年によって、負傷の状況を3通り【軽症の場合】【意識はあるが重症の場合】【緊急な状態の場合】想定。
>
> ◆　教職員にも負傷者がいることは知らせずに実施。（知っているのは管理職、担当、生徒部長、養護教諭のみ）

3　成果と今後の課題等

○　教職員に危機意識が生まれ、危機管理マニュアルに基づく行動ができるようになった。

○　今後も、危機管理マニュアルを随時見直しながら、実際に災害時に誰が初動対応となっても生徒に落ち着いて指示ができるようにし、安心・安全な学校づくりに一層取り組む。

一覧にもどる

取 組 名	豊田幹部交番交通安全イベント		
特　　徴	地域と協働した少年セーフティーリーダーズ活動		
学 校 名	山口県立山口農業高等学校西市分校	期日	令和5年7月19日（水曜日）

1　ねらい

○　「夏の交通安全県民運動」を盛り上げるために、設置看板の周囲を花で彩る。

○　自転車利用者への「鍵かけとヘルメットの着用」をはじめとして、地域に交通安全を呼びかける。

2　概要

○　長府警察署交通課の主催で、豊田幹部交番に交通安全看板を設置した。

○　看板の周辺を彩る花は、西市分校の生徒が育てたものを活用した。

○　花の定植には西市分校生徒の他、地域の小学生、中学生や安全協会の方等が参加した。

○　花を定植したプランターは、豊田幹部交番の道路側敷地に看板と共に設置された。

（豊田幹部交番前集合写真）

（豊田幹部交番署長挨拶）

（小・中・高合同記念撮影）

（児童と女子生徒が共同で定植）

（児童と男子生徒が共同で定植）

（小学生が花の定植後の散水）

3　成果と今後の課題等

「夏の交通安全県民運動」に花の苗を提供するとともに、参加者に定植の指導をする等、主体的な関わりをもつことで、参加生徒の安全意識が高まった。

今後は、この成果を参加生徒だけでなく、学校全体で共有できるよう、情報発信や活動の継続に努めたい。

一覧にもどる

取 組 名	防犯教室		
特　　徴	生徒主体で実施した防犯教室		
学 校 名	山口県立下関北高等学校	期日	令和5年9月7日（木曜日）

1　ねらい

○　不審者と遭遇したときの対処方法を理解できる。

○　学習したことを他の人にも分かりやすく伝えることができる。

2　概要

(1) 小串警察署における、防犯対策の講義

○　令和5年6月22日（木曜日）に小串警察署において防犯対策の講義を受講し、護身術やさすまたの使い方を学習し実践した。

○　防犯対策について、生徒が知りたいことを質問し、様々な知見を得ることができた。

(2) 防犯教室

○　防犯教室を実施するにあたり、小串警察署の方から学んだことの何を伝えるのか、どのように伝えるのかを生徒主体で考えた。

○　体育館のステージで、護身術、カラーボールやさすまたの使い方を、実演しながら全校生徒に教えた。また、クイズ形式やパワーポイントを用いて、分かりやすい説明を心掛けていた。

護身術の実演

カラーボールの説明

さすまたの使い方の実演

3　成果と今後の課題等

・生徒主体で防犯教室を実施することで自身や他者の安全を守る意識を高めることができた。また、小串警察署の方から防犯対策の講義を受けることで、より専門的な学習をすることができた。

・今後は避難訓練を生徒が中心に考え実施することなど、安全教育に生徒が主体的に取り組む場面をさらに増やしていきたい。

一覧にもどる

取 組 名	①防災訓練 ②救急処置研修会		
特　　徴	①シェイクアウト行動とスマートフォン、もしくはタブレットを利用しての帰宅確認訓練（グーグルクラスルームを利用） ②各部活動から選出した代表者と教職員を対象とした救急処置のロールプレイング（アクションカード、AED、心肺蘇生法）とエピペン講習		
学 校 名	山口県立萩商工高等学校	期日	①令和5年7月13日（木曜日） ②令和5年7月20日（木曜日）

【①防災訓練】

1　ねらい

地震、及び火災発生時に適切で迅速な対応ができるよう訓練を行い、併せて教職員の避難意識の向上を図る。

2　概要

（1）地震震度6を想定（津波の恐れなし、二次災害なし、JR不通、携帯電話は使用可）

・クラスルームを利用しての帰宅確認訓練を実施
・萩市発行のハザードマップの説明
・地震時の教室での対応（シェイクアウト行動の確認）
・怪我をした生徒がいるとの想定で応急処置訓練も実施（骨折、止血）

（2）成果と今後の課題等

防火防災・防犯について、生徒の安全を第一優先に考え、危機管理の意識を常にもち、迅速な行動がとれるように訓練に取り組めている。防犯については、校内に不審者が侵入したとの想定で12月に実施する予定である。

【②救急処置研修会】

1　ねらい

思いがけない怪我や病気に対しても冷静に対応できるよう心肺蘇生やAEDの使用訓練を実施する。また、アナフィラキシー症状が起きたことを想定してのロールプレイングを行い、日頃から慌てることなく対応できるようにする。

2　概要

教職員と部活動から代表生徒を選出し、訓練を実施、萩消防職員・萩市消防団6名を講師として依頼

・心肺蘇生やAEDの使用について、ロールプレイングで訓練を実施した。
・アナフィラキシー症状の対応については、訓練用エピペンを使用し、かつアクションカードを使用してのロープレイングを実施。

心肺蘇生とAEDの実技指導

心配蘇生とAEDのロールプレイング

エピペンの講習

3　成果と今後の課題等

受講後のアンケートには、「この研修を通して、様々な場面で迅速にかつ冷静に対応できると思った。」一方、「咄嗟に判断や対応がとれるか不安である。」との意見も出た。研修を繰り返し行うことで自信をもって対応できるようにしていかなければならない。

一覧にもどる

取 組 名	ＡＥＤ講習会		
特　　徴	教員と寮生対象のＡＥＤ合同講習会		
学 校 名	山口県立下関中等教育学校	期日	令和5年12月5日（火曜日）

1　ねらい

○　心肺蘇生やＡＥＤの講習で実技を受けることで、より多くの生徒や教職員が緊急時に適切な対応を行えるスキルを身につける。

○　寄宿舎で心肺蘇生やＡＥＤ使用の緊急事態時に、舎監教員や舎監補助員と生徒が協力し、効果的な救命活動を行うことができる。

○　自身のできる範囲で仲間と協力し、他人を助けることに対する責任感を養う。

2　概要

(1) 心肺蘇生の指導

○　講習会は放課後、本校武道場で実施。講師に日本赤十字社山口県支部の木村様を招聘。

○　熱中症対策についての講義の後、生徒と教員が3～4人組のグループに分かれ、講師の指導のもと、テキストを参考にしながら順番に心肺蘇生の訓練を行った。

講習会の様子

木村様による指導

心肺蘇生の様子

(2) ＡＥＤの指導

○　ＡＥＤの操作方法や緊急時の対応手順、留意点などを学び、講師の指示に従い、グループごとにＡＥＤ使用の訓練を行った。

生徒と教員でのＡＥＤ訓練

生徒の様子

教員の様子

(3) 成果と今後の課題等

○　心肺蘇生やＡＥＤの講習を受けることで、多くの子どもたちの命が救われることへの意識が高まった。

○　講習会を1回実施するだけでなく、定期的に実施することが大切である。今後学年や部活動単位などでも講習会を開き、より多くの生徒に普及させていきたい。

○　6学年の生徒が集う中等教育学校で、広い敷地にＡＥＤ2台（寮と体育館付近）では場所によっては救急救命がかなり遅れる可能性があることが分かった。

一覧にもどる

取 組 名	ＰＴＡ防災・広報部による校内安全パトロールの実施		
特　　徴	保護者の目線から子どもたちの安全を考える。		
学 校 名	山口県立徳山総合支援学校	期日	令和5年6月6日（火曜日）

1　ねらい

○　子ども達が安心して安全に学校生活が送れるように、ＰＴＡ役員とボランティアで校内や校外周辺の危険場所や避難経路の確認をする。

○　普段あまり見ることができない教室やグラウンドなどを見て回り、保護者の目線から子ども達の安全を考えることができる。

○　パトロール結果を教職員と協議し、できることから改善・対策を考える。

2　概要

(1) ＰＴＡ防災・広報部による校内パトロールの実施

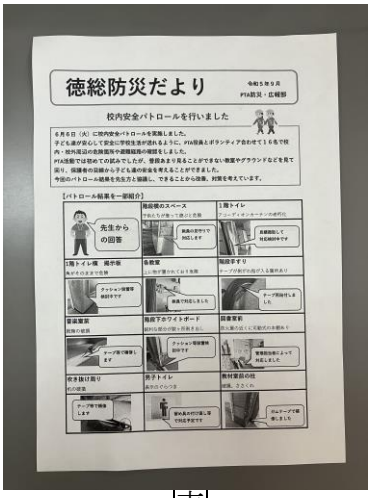
○　令和5年6月6日（火曜日）に実施し、パトロールの結果、保護者の目線から気になる危険・破損箇所が数十か所見つかった。また、実施後には、校長、教頭、事務長に報告・相談を行った。

階段横のスペース（子どもたちが上って遊ぶと危険）

ホワイトボード上（物が置かれており危険）

(2) 徳総防災だよりの発行

○　校内パトロール実施後、防災だよりを発行し、各家庭や教職員と情報共有を行った。



表

裏

3　成果と今後の課題等

○　今年度からの取組のため、継続していくことが子どもの安全・安心につながる。

○　ＰＴＡ役員以外の保護者にも、学校環境を意識してもらいたい。

○　保護者と教職員が協力し、安全・安心な学校環境を作っていきたい。

一覧にもどる

取 組 名	児童生徒が考えて行動する避難訓練		
特　　徴	校内放送で得た情報（出火場所や通行ができない場所）をもとに、児童生徒が避難経路を考え避難する。		
学 校 名	山口県立宇部総合支援学校	期日	令和5年10月24日（火曜日）

1　ねらい

○　事前事後指導を通して、合言葉「お・は・し・も」を再確認し、安全に避難する態度・習慣を身につける。

○　児童生徒自らが状況を判断しながら、適切な避難方法及び避難経路を選択して避難することができる。

2　概要

(1) 事前に撮影した「お・は・し・も」について説明した動画を視聴する。

○　限られた時間の中で、一人でも多くの児童生徒が理解し行動できるよう、教員がモデルとなり『避難の注意点やポイント』を撮影した。その映像にテロップをつけ理解が深まるよう編集を行った。

○　訓練開始前に動画を視聴させ『避難の注意点やポイント』を理解させた。

○　避難経路図を使用し、通常の経路で避難できない際はどのように行動するかシュミレーションを行った。

(2) 緊急地震速報を聞き一次避難を行う。

○　緊急地震速報が流れた時に、「〇〇しなさい」等の指示ではなく、「どうしたらいい？」と考えることができるような言葉掛けを行った。

(3) 避難放送の情報をもとに避難経路を考える。

○　放送で得た出火場所や通行不可能な場所等の情報をもとに、火や煙から離れ安全に移動ができる避難経路を考えさせた。

(4) 安全を確認しながら自分たちで考えた避難経路を移動し避難する。

○　通行不可能な場所は、コーンや絵等で視覚的に示した。

○　児童生徒が先頭に立ち、話し合ったルートで避難した。

○　避難の様子をクラス担任がｉＰａｄで撮影し、振り返りで活用した。

＜事前指導＞

＜1次避難＞

＜事後指導＞

3　成果と今後の課題等

・今までの避難訓練では、児童生徒は教員の指示で動き、毎回決まった避難経路を通り集合場所まで移動していた。初めて子どもたちが主体的に動く訓練を行ったが、『避難の注意点やポイント』を思い出しながら、落ち着いて行動できていた。また、話し合いの場では、積極的に意見を言ったり、他の生徒の言葉に耳を傾けたりする場面が見られた。

・在学中に災害が起きた時は教員が誘導を行うが、登下校や週末等の外出中に災害に遭遇することも考えられる。その際に、訓練でのポイントを思い出し、安全に避難できるよう、様々なケースを想定した訓練を実施する。

一覧にもどる